

平成 21 年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業

オーストラリア研修 報告書



平成22年1月3日(日)～1月11日(月)

ご日程表 (仙台発9日間)

株式会社 JTB東北

横手支店

TEL : 0182-33-4933

FAX : 0182-33-5899

支店長 : 伊藤 邦彦

取扱管理者: 伊藤 邦彦

担当者 : 青木 克善

作成日 2009年8月20日

大仙市立中学校生徒海外派遣 様

日程: 平成22年1月3日(日) ~ 平成22年1月11日(月)

参加人員: 生徒20名様+引率1名様+添乗員1名同行

日次	月日(曜)	都市	現地時間	交通手段	スケジュール【宿泊先】	朝食	昼食	夕食
1	1/03 (日)	大曲市役所発 仙台空港着 仙台空港発 グアム空港着 グアム空港発	07:00 10:30 12:15 17:00 19:55	専用車 航空機 航空機	専用車にて仙台空港へ チェックイン 出国手続後、C0932便にてグアムへ(所要3:45) 出発時間まで空港内にてフリータイム。 C0902便にてケアンズへ(所要4:40)	×	機内	機内
2	1/04 (月)	ケアンズ空港着 ケアンズ空港発 マンガリフォルス	00:35 01:30 03:00 13:00 17:00 18:30 19:30	専用車	入国手続後、マンガリーへ移動。 着後、睡眠・休憩。 現地スタッフと一緒に環境学習体験。熱帯雨林散策 や川泳ぎなどを楽しく体験致します。 オーストラリアだけに棲息する『カモノハシ』探索 ウォーターフォールカフェにてご夕食 土ポタルと星空鑑賞へGO!! 【レインフォレストロッジ泊】	ロッジ	ハンバーガー	スパゲティ
3	1/05 (火)	マンガリフォルス	08:30 10:00 10:30	ホストファミリー	ウォーターフォールカフェにてご朝食 オリエンテーション後、ホストファミリー面会 ファームステイ先へ移動 いよいよオーストラリアの生の暮らし体験 【ファームステイ】	ロッジ	ステイ先	ステイ先
4	1/06 (水)	マンガリフォルス	終日		ホストファミリーと過ごす1日 ファームの仕事と一緒に手伝い、家族と共に過ごしていただきます 【ファームステイ】	ステイ先	ステイ先	ステイ先
5	1/07 (木)	マンガリフォルス	終日		ホストファミリーと過ごす1日 ファームの仕事と一緒に手伝い、家族と共に過ごしていただきます 【ファームステイ】	ステイ先	ステイ先	ステイ先
6	1/08 (金)	マンガリフォルス	09:00 10:00	ホストファミリー	各ファームステイ先よりマンガリーに集合 終日: 現地学生との交流 アーチェリー・ランドスライド・チームラフトビルド・障害物競争・キャンプファイヤーなど 【レインフォレストロッジ泊】	ステイ先	ピザ	BBQ
7	1/09 (土)	ケアンズ	06:30 07:45 08:30	専用車	ウォーターフォールカフェにてご朝食 マンガリーフォールズを出発 エクスカーション ~グリーン島~ さんごの島にて海水浴やマリンスポーツを体験。 【ケアンズコロナクラブリゾート泊】	ロッジ	カフェ	ホテル
8	1/10 (日)	ホテル発 ケアンズ空港着	09:00 22:00	専用車	エクスカーション ~キュランダ渓谷~ 渓谷を走るキュランダ鉄道や水陸両用車に乗り、ケアンズの自然を体感致します。 チェックイン 【機中泊】	ホテル	カフェ	×
9	1/11 (月)	ケアンズ空港発 グアム空港着 グアム空港発 仙台空港着 仙台空港発 大仙市役所着	01:35 06:05 08:00 11:00 13:00 16:30	航空機 航空機 専用車	出国手続後、C0903便にてグアムへ(所要4:30) 出発時間まで空港内にてフリータイム。 C0931便にて仙台へ(所要4:00) 空港内にて昼食(各自) 入国手続後、貸切バスにて秋田へ 無事到着、お疲れ様でした。	機内	×	×

平成21年度大仙市中学校生徒海外派遣事業派遣生徒一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別
1	大 曲	2	阿 部 理 紗	女	11	平 和	2	高 橋 智 大	男
2	大 曲	2	伊 勢 彩 乃	女	12	南 外	2	今 野 拓	男
3	大 曲	2	黒田 萌亜璃	女	13	南 外	2	佐 藤 千 尋	男
4	大 曲	2	佐々木 達也	男	14	南 外	2	鈴 木 豪	男
5	大 曲	2	佐 藤 和 羽	女	15	南 外	2	鈴 木 雄 大	男
6	大 曲	2	佐 藤 静	女	16	中 仙	2	菅 沼 楓	女
7	大 曲	2	高 橋 周 平	男	17	中 仙	2	武 藏 愛 菜	女
8	大 曲	2	田口 菜由子	女	18	豊 成	2	坂 本 昂 嶺	男
9	大 曲 西	2	品 川 真 有	女	19	豊 成	2	高 橋 峻 介	男
10	平 和	2	黒 川 瞳 冴	女	20	太 田	2	上 井 初 希	女



結団式

派遣生代表誓いのことば

私にとって「海外に行ってみたい」ということは、小学生の頃からの夢でした。意味もわからないのに英語を聞いて「すごいな、話してみたい」と真似してみたり、調べてみたり、海外の音楽や、建物、日本とは違う生活習慣などにとても興味があり、「直接触れてみたい」と夢は膨らむ一方でした。

昨年、大仙市の海外派遣のことを聞き、参加した先輩や友達の話聞いて、居ても立ってもいられず、家族と話し合いました。手伝いを頑張ったり、おこづかいや、お年玉などをコツコツとためたりして応募しました。夢が叶って、参加が決まった時は、とびあがる程嬉しかったです。

この素晴らしいチャンスを与えてもらったことに感謝の気持ちを持ちながら、オーストラリアでは、英語や文化、食生活、また交流に積極的にチャレンジし、日本の良さを少しでも伝え、オーストラリアの素晴らしさを持ち帰ってきたいと思います。



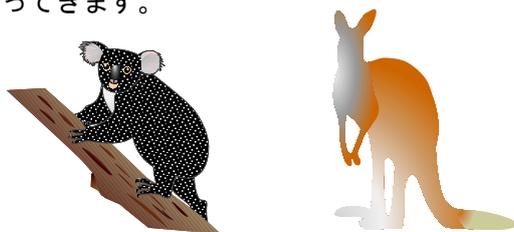
(大曲中学校 田口菜由子)

3ヶ月程前から準備を始め、いよいよ出発が近づいてきました。

日本と異なる生活習慣、文化に直接触れ、生きた英語、オーストラリアの大自然の中で過ごす九日間、不安もありますが期待と好奇心でいっぱいです。きちんと自分の意志を伝えたり、相手の気持ちを理解したり、積極的にコミュニケーションをとりながら国際交流をしてきたいと思います。また、日本の生活や文化も紹介したいです。

今回の体験は将来に役立てることのできる有意義なチャンスなので、たくさんの事を学び、感動し、大いに楽しんできたいと思います。

これまで海外派遣準備をお世話してくださった教育委員会の皆さんをはじめ、JTBさん、先生方、家族、またオーストラリアの家族の皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、元気に行ってきます。



(豊成中学校 坂本昂嶺)

平成21年度海外派遣生自主研究テーマ一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	自主研究テーマ
1	大 曲	2	阿部理紗	女	衣食住において無駄を出さないためにはどうしたらよいか？
2	大 曲	2	伊勢彩乃	女	よりよいボランティア活動を行うためにはどうあるべきか？
3	大 曲	2	黒田 萌亜璃	女	食べ物の無駄をなくすにはどうするべきか？
4	大 曲	2	佐々木 達也	男	大仙の農業を元気にするにはどうすればよいか？
5	大 曲	2	佐藤和羽	女	生ゴミや食べ残しを減らすためにはどうするべきか？
6	大 曲	2	佐藤 静	女	大仙市の水・ゴミ・エネルギーの無駄をなくすにはどうするべきか？
7	大 曲	2	高橋周平	男	みんなが住みやすい街づくりのため、マナー向上に対する取り組みはどうあるべきか？
8	大 曲	2	田口 菜由子	女	大仙市の生ゴミを減らすためにはどうするべきか？
9	大 曲 西	2	品川 真有	女	できるだけ地産地消をし、食料自給率を上げるにはどうするべきか？
10	平 和	2	黒川 瞳 呀	女	自然環境を守るためにはどのような取り組みをするべきか？
11	平 和	2	高橋 智 大	男	ボランティア活動を通して、もっと市を大切にするにはどうするべきか？
12	南 外	2	今 野 拓	男	親と子が良い関係でいるためにはどうするべきか？
13	南 外	2	佐藤 千 尋	男	大仙市の自然をよりよく未来残すためにはどうするべきか？
14	南 外	2	鈴木 豪	男	効率的に学習するにはどうするべきか？
15	南 外	2	鈴木 雄 大	男	大仙市の人々のリサイクル意識を高め、ゴミを減らし、有効活用するにはどうするべきか？
16	中 仙	2	菅 沼 楓	女	私たちの文化・自然を大切に守っていくにはどうするべきか？
17	中 仙	2	武 藏 愛 菜	女	人々が助け合って快適に暮らすにはどうするべきか？
18	豊 成	2	坂 本 昂 嶺	男	クリーン活動などのエコ活動を活性化するためにはどうするべきか？
19	豊 成	2	高 橋 峻 介	男	自然そして環境を大切にするにはどうしたら良いか？
20	太 田	2	上 井 初 希	女	よりよい学校生活のためにはどうするべきか？

事前学習会の様子



ブレイク先生から出入国カードの記入について教えてもらいました。



A L Tのメリッサ先生と自己紹介の練習です。



A L Tのパトリア先生と色々な場面でのあいさつを練習しました。



A L Tのロビン先生から、コミュニケーションをとる際のコツを聞きます。



A L Tのエバン先生と、機内や出入国審査、税関での対話を想定してやりとりしてみます。



「どんな家庭にお世話になるのかな？」

ホストファミリーの名前や家族構成
をブレイク先生と確認しています。

「おみやげは何を持って行こうか？」
「どんな日本文化を紹介する？」

みんなで相談しています。



結団式の様子



大曲中学校の田口さん、
豊成中学校の坂本さんが、
代表であいさつをしてくれました。

教育長の前であいさつをするのは、とても緊張します。



間もなく研修に出発する実感が少しずつ湧いてきました。

真剣な眼差しで教育長のお話を聞いています。



オーストラリアの衣食住

派遣生番号:NO,1

大仙市立大曲中学校二年 阿部理紗

I はじめに

夢のような待ちに待ったオーストラリアへの海外派遣事業。私は、外国(オーストラリア)と英語に深く興味をもち、その文化や環境を調べに行きました。

II テーマ設定の理由

オーストラリアと日本の違いで調べようと思ったのは、「衣食住において無駄をださないためにはどうしたらよいか」ということです。日本では、食べ残しを捨てる人がほとんどですが、オーストラリアでは、どうしているのか疑問に思ったからです。

III 調べた内容

- | |
|--|
| (1) 食べ残しはどうしているのか。
(2) 衣食住の「住」においては、どうしているのか。 |
|--|

(1) 食べ残しはどうしているのか。

【日本とオーストラリアとの違い】

日本人は、食べ残しを捨てる人が多い。
だが、オーストラリアは一世帯における土地面積が大きいので、たくさんの動物を飼っている人が多いです。私のホームステイ先、JACK と LINDA(JACKLIN)家には、**犬・ネコ・牛・にわとり**などの鳥と数多くの動物たちがいました。そのため、人間が食べ残したものは、**細かく切り刻み鳥たちの餌に**していました。私たちは、JACKLIN に日本文化の紹介として、そうめんを作ってあげました。私がお腹いっぱい残したところ、LINDAは「それは、ウォーリー(犬の名前)の朝食にする。」と言いました。

このことから、オーストラリアに住む人々は、食べ残したものは、ペット(動物)にあげることが分かりました。

(2) 衣食住の「住」においては、どうしているのか。

【シャワー】



日本人は、時間を気にせずにシャワーを使っていますが、オーストラリアは水を大切に使用している為、5分以内というのが一人あたりの基本的な使用時間です。私たちのステイ先では時間は決められませんが、5分以上使うと注意される場所もあるようです。

IV エピソード

【レインフォレストロッジ】

ロッジは熱帯雨林の木々に囲まれていて、日本では見られないさまざまな種類の木がありました。中には、触れると死んでしまう木も!!!ロッジには、日本人スタッフが何人かいてオーストラ



リアの話などをたくさんしてくれたり、食事を作ってくれました。ロッジの食事はとてもおいしくて毎日元気に生活することが出来ました。**熱帯雨林散策**では、山を登ったり、下ったり大変でしたが、アマゾンにありそうな木があったり、赤い綺麗な花があったりと多種の植物がありました。川泳ぎでは、自然の川に入れてとても楽しかった半面、ハブニングやヒルに噛まれたりと大変なこともありました。ロッジ生活最終日には、**オーギーキッズ**(現地の学生)達と、障害物競走やアーチェリーなどをしました。オーギーキッズ達との一番の思い出は、**オーギーダンス**です。日本人スタッフの「カイト」が歌う曲にのせて、キッズ達とダンスを踊りました。激しいダンスや軽快なステップを踏むダンスなど、全部楽しく踊れました。



ヘルメットをつけて、下にある池までウォーターライダーのように滑り落ちていくスポーツは、最初は怖いと思っていましたが、やってみるととても楽しかったです。スピードが速くて池に落ちたとき、着ていた白のワンポイント T-シャツは茶色に!!!

【Farm stay】

私が行ったステイ先は、**JACK** と **LINDA** の家です。通称 **JACKLIN PARK**。JACKLIN 家には子供はいませんが、優しい **JACK** と **LINDA** がいました。LINDA は、毎日ドライブに連れて行ってくれたり、おいしい食事を作ってくれたりしました。BBQ もしてくれました。



(家での食事)

BBQ は、親戚をたくさん呼んでキャンプ場でやりました。想像していた日本の BBQ とは違いましたが、とても楽しかったです。BBQ 場にはプールもあってたくさん泳ぎました。



(BBQ)

ドライブは、LINDA のお友達の家に行ったり、JACK のアイデアでカンガルーを見に行ったりしました。初めて見るカンガルーは、想像していたよりも小さくて驚きました。JACKLIN PARK はとても広くて、川も敷地の一部でした。川の向こう側には、牛がたくさん飼われていました。はじめの2日間は、LINDA の兄弟の娘さんが2人来ていました。一人は、私と同じ**14歳**の **Jody**、もう一人は、**11歳**の **Kim**。2人とも仲良くしてくれて、コアラのキーホルダーやコースター、絵をプレゼントしてくれました。お別れのときは、私が2人の名前を習字で書いたものと日本円をプレゼントしました。2人ともすごく喜んでくれたので嬉しかったです。



習字は、もちろん JACKLIN にも書き、他にも犬の「ウォーリー」・「モーリー」・「ナウリー」にも書きました。犬達は、いつも私達のところに来て遊んでくれました。最終日には、私達が帰るのを知ってか、ずっと離れずについてきました。私は、嬉しくてずっと遊んでいました。

【Green Island】

7日目。私たちは、一度ケアンズを出て**グリーン島**に出発。グリーン島は**観光地**としても有名で、たくさんの外国人が訪れていました。中でも、アジア系の韓国人や日本人が多かったです。グリーン島の海は、透き通っていてとてもきれいでした。海に入ると、魚達が浅瀬に来て泳いでいました。とても、可愛かったです。





←このような船に乗って、海底にいる魚たちを観察。→魚がたくさん泳いでいた他、サンゴやナマコもいっぱいいて驚きました。



【キュランダ渓谷】



この鉄道は、「世界の車窓から」などにも登場した有名な鉄道です。たくさんの観光客が乗って写真を撮っていました。キュランダには、世界遺産が2つありました。途中の駅には大きな滝があって、多くの人が降りて、撮影していました。

オーストラリアの先住民「アボリジニ」のダンスややり投げ、ブーメラン投げ、楽器演奏を鑑賞・体験してきました。ブーメラン投げは、思ったほど上手く飛ばず、すぐに落ちてしまいました。ダンスは、さまざまな様子をダンスにして踊っていました。



←このような水陸両用車に乗って、本物のジャングルクルーズを楽しみました。水の中にも入っていき、スリル満点でした。



V 海外研修を終えて

私は、オーストラリアの様々な文化や環境を調べるために研修に応募しました。初めはたくさん心配事がありましたが、オーストラリアで生活していくうちに、人々の優しさを感じました。ファームステイの家族も、日本には無いものや私たちの知らないことなどをたくさん教えてくれました。ファームステイの家族との別れはとても悲しくて、帰る前日は号泣してしまいました。私たちを自分の子のように迎えてくれた JACK と LINDA には、感謝の気持ちでいっぱいです。

日本に戻ってからも、またオーストラリアに行きたいという気持ちが胸に溢れてきました。オーストラリアに行けたのは、家族と先生方のおかげなのでとても感謝しています。



海外研修 *in Australia* を終えて

No.2 伊勢 彩乃

†自主課題

“よりよいボランティア活動を行うためにはどうあるべきか”

I. はじめに

私は最初、信じられませんでした。

まさか、自分が海外に行けるとは…

初め、夢かと思いましたが現実だと分かった瞬間から少しずつ準備をし始めました。

そして、年が明けてすぐ。

1月3日、期待や不安で胸を膨らませ、私達は日本を飛び立ちました。

II. 自主課題について

<u>日本赤十字</u>	<u>オーストラリア赤十字</u>
Japan	Australia
Red	Red
Cross	Cross

① 募金活動

日本では、スーパーやコンビニなどのあらゆる店舗で募金箱を見かけることができますが、オーストラリアではほとんど見かけることがありませ

んでした。

ただ、2か所だけ募金箱が設置されている場所がありました。

それは、ケアンズ国際空港とマクドナルドです。

マクドナルドと言えば日本でもお馴染みの超人気店ですが、

皆さんはマクドナルドに設置してある募金箱を知っているでしょうか？更に募金したことはあるでしょうか？

オーストラリアのマクドナルドに設置してあった募金箱は、やはり英語で書いてあるものの募金内容は同じようでした。



⇔㊤オーストラリア ㊦日本

“たくさんの子供達をハッピーに”
これは、病気のためにマクドナルドに来られない子供達への募金です。

ケアンズ国際空港にあった募金箱は面白い形をしていました。

よく見る直方体の箱などではなく、バランスボールくらいある球体でした。

珍しいものを見ると興味が湧いてくるということもあると思うので、多くの人が募金してくれるということもあり得るかな、と思いました。



“あなたは何でもできる！不可能はない！”

これは、医療活動への募金でした。

たくさんの人々を救うために、ということが書かれてあったので私は、国境なき医師団の活動支援の為の募金なのかなと思いました。

②REVO 活動（曲中 REVO しぐさ）



RECYCLE

牛や馬などの“home farm”で育てている動物の糞を堆肥にまわしていた。

ECO

生ゴミを“home farm”で育てているニワトリに食べさせていた。



ECO VOLUNTEER

環境保護活動 グリーン島にて↓↓↓

グリーン島には世界自然遺産に登録されているグレートバリアリーフがありますが、さすがに世界遺産ともなれば環境保護に関してとても厳しく徹底されていました。

壱、ゴミを捨てない。

弐、サンゴや貝などを持ち出さない。

参、持ち込まない。

⇒ サンゴは、環境の変化にとっても敏感なため、少しの変化も命取りになる。

★ まとめ

募金活動に関しては、日本の方が盛んだし、参加状況もいいと思い

ます。

ただ、ケアンズ国際空港にあった募金箱のように、**ちょっと違った珍しい形の募金箱**を使用すれば、もっと色々な人が興味を示し、募金の参加状況がさらに良くなる可能性もあると思います。

環境保護に関しては、オーストラリアの方が意識が高いと感じました。それは、オーストラリアには稀少な動植物が数多く存在するためだと思います。

リサイクルは、生ゴミなどでは見られましたが、日本のようにペットボトルなどのリサイクルは見られませんでした。それに、ゴミの分別も見ませんでした。町中にたくさんさんのゴミ箱はあるものの、1つポツンとあるだけで分別ができるような設備はありませんでした。



世界の車窓から in Australia



これは実際に‘世界の車窓から’の番組オープニングに出てくる、
“キュランダ鉄道”の列車の写真です。

以上、伊勢彩乃のオーストラリアレポートでした。

オーストラリアの食文化

NO. 3 黒田 萌亜璃

はじめに……

私は以前から英語がすごく好きで、外国の文化や生活にとっても興味を持っていました。そこで、海外派遣の募集を見て、「ぜひ海外に行って生きた英語に直接ふれてみたい」「外国の文化や生活を実際に見たり、体験したい」と思いこの派遣事業に応募することを決めました。

内容

私は“オーストラリアの食文化”というテーマのもと現地で調べてきました。私がこのテーマを設定した理由は、私たち日本人の食生活には残飯が多いけれども、オーストラリアの食生活はどうなのか、日本はオーストラリアから学ぶべきところはないか、逆にオーストラリアが日本から学ぶべきところはあるだろうかと考えたからです。オーストラリアの食生活についてはホストファミリーの子供と現地の学生に聞きました。ホストファミリーの子供はクリスタル(中2、女子)、ダニエル(小6、男子)といます。

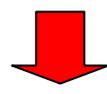
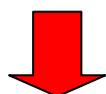
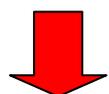
まずはオーストラリアの学校給食についてです。オーストラリアの給食は小、中学校ともに食堂のように自分で食べたいものを注文するという形式です。

中学校は全て自由に選びますが、小学校はメインディッシュの中から必ず1つ
選び、その内容は曜日ごとに替わる日替わり制です。サイドディッシュやデザート
もあります。

小、中学校ともに給食を作る人は、学校給食のスタッフとボランティアの親たち
です。

私がお世話になったホストファミリーのママもよくボランティアにいくそうです。

* **クリスタルとダニエルに学校給食の人気メニューと人気のないメニュー
を聞き、ランキングにまとめてみました。**



クリスタルの中学校の大人気メニュー☆

ダニエルの小学校の大人気メニュー☆

☆第1位☆

☆第1位☆

スパイシーチキン

パイ

☆第2位☆

☆第2位☆

サラダ

ソーセージ

☆第3位☆

☆第3位☆

デザート

チキンナゲット

クリスタルの中学校で人気のないメニュー ダニエルの小学校で人気のないメニュー

トーストのパン

バイクドビーンズ

次はオーストラリアの家庭での食生活についてです。私がお世話になったホストファミリーのお宅では、たくさんのおいしい食事が出てきました。そのボリュームは日本人が驚くほどです。それに、朝、昼、晩の食事の後には必ずデザート



を食べます。私はおいしそうなおいにおいに誘われて少し台所をのぞいてみました。そこでは、丁度ママが食事の支度をしていました。キッチン台の上にはバケツいっぱいの生ゴミがありました。“これはゴミになるんだな”と心の中

で思っていました。しかし、ママはそのバケツを持って外の鳥小屋に行きました。そこには数羽のにわとりがいました。生ゴミはそののにわとりのえさだったのです。

にわとりはおいしそうにつついていました。にわとりがいるおかげで生ゴミはほぼゼロに近いということでした。食事を終えて、残った食材はラップをして冷蔵庫に保存されました。保存できないものも



にわとりのえさになりました。そのため、食材をゴミ箱に入れることはほとんどありませんでした。

考察～わかった事～

オーストラリアの給食については、自分で注文するのでほとんど残す人はいないそうです。しかし、小学校ではメインディッシュは必ず食べる事になっているので

残す人もたまにいます。ほとんどの子供は全部食べるそうです。家庭の生ゴミは家畜のえさになり、冷蔵庫はひとつではないのでほとんどのものは保存され、保存できないものは家畜のえさになるそうです。オーストラリアの家庭では牛や豚など家畜を飼っている家庭が多いので食品の無駄はほとんどありません。

* まとめ *

この調査によってオーストラリアのECOな食生活がよくわかりました。やはり、日本はオーストラリアに比べたらすごく残飯が多いと思いました。日本もオーストラリアのように、給食を自分で注文する食堂のような形式をとれば少しは残飯が減ると思いますが、今の給食は毎日栄養士さんが栄養のバランスを考えて作っているメニューなので、せめて“出された量は残さず食べる”ことでバランスの良い食事が取れ、残飯も減ると思います。また、家庭で排出された生ゴミをコンポストや生ゴミ処理機を使い堆肥にするなど、小さな事からコツコツと行っていけば残飯が少なくなると思いました。

* オーストラリアの思い出～パート1～ *

・初めての飛行機！！

空からのながめはとても綺麗で最高でした。

・野生のワラビー発見

マンガリーのロッジ付近で野生のワラビーを見つけました。

カンガルーに会えなかったのが残念。

・激闘！！ カモノハシ探索

マンガリーの池でカモノハシを探しました。なか

なか、お目にかかれず最後の最後にやっと少しだけ見ることが出来ました。



・初めてのブッシュウォーク

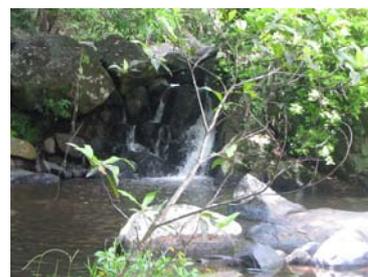
ブッシュウォークとは険しい山道をみんなで歩くことです。

木をよけながら足場の悪いところを歩いたのでとても疲れしました。

・現地の学生との交流

現地の学生と言っても小学生がほとんどでした。

障害物競走ではかなり泥んこになりました。



ホストファミリー☆紹介

(父)グレン・・・仕事に行っていて日中はほとんど会うことはなかったけれど、日

本の遊びが好きで折り紙がとても上手な物知りなパパです。

(母)スー・・・マンガリーのキッチンCAPを務める、料理が上手で元気で明るい

優しいママです。

(長女)クリスタル・・・泳ぐのがすごく上手で音楽を聴くのが大好き。美人で

気が利く中学2年生の女の子。

(長男)ダニエル・・・運動神経抜群で何でも出来る小学6年生の男の子。

すごく親切だけど甘えん坊なところもある。



写真の一番左がクリスタルで、そのとなりがダニエル、右から二番目がスーで一番右がグレン。このほかにも、ちょっと太った猫とウインディーという犬、インコ、トカゲ、

にわとりなどがいました。

* オーストラリアの思い出～パート2～ *

・街のストーンマーケットに行きました

ストーンマーケットはアメジストの専門店です、たくさんの宝石がありました。

いろいろな種類の宝石があってとっても綺麗でした

・風力発電見学

小雨の中、風力発電の風車を見に来ました。



雨が上がってそこに丁度虹がでてきました。ビューティフルー

・大きな湖へダイブ！！

大きな湖へ泳ぎに行きました。とても深かったです。そこで、海外初ダイビングをしてきました。



・ホストファミリーと、日本の文化“習字”に挑戦

夜にみんなで習字をしました。グレンさんは“山”、スーさんは“花”、ダニエルは“庭球”、クリスタルは“幸福”と書きました。みんな上手に書けました。



・ホストファミリーと日本食を食べました

日本食は、そうめん、肉じゃが、卵焼き。それからチョコフォンデュもつくりました。

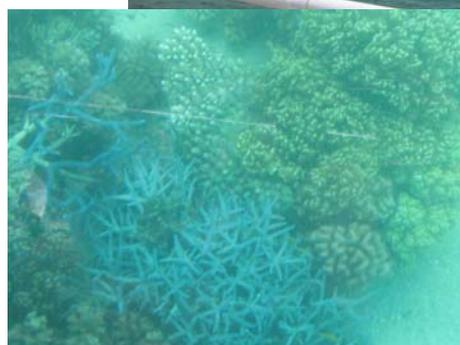
どれも大好評で卵焼きは作り方まで聞かれました。

・ 超高速！！ウォータースライダー

とても速くてびっくりしました。

・グリーン島で海水浴

グリーン島の海はとても綺麗で泳いでいてすごく気持ちよかったです。貝殻探しも楽しかったです。



オーストラリア研修で得たもの

NO. 4 大曲中学校 佐々木達也

・はじめに

僕がこのオーストラリア研修に応募したのは、地理が好きで、世界中の国々に興味があり、いつか海外へ行ってみたいと強く思っていたからです。またこれまで勉強してきた英語がオーストラリアでどれだけ通じるのか試してみたいという思いもありました。

それから、僕の祖父の家は農家で、僕も時々手伝いに行っています。そのため、農家にホームステイして手伝いをするという今回のプログラムに興味を引かれ、広大なオーストラリアの農業はどのようなものか、秋田の農業とどう違うのか調べてみたいと思ったのも、理由のひとつです。



・テーマ設定の理由

今回の僕の自主研究テーマは

『大仙の農業を元気にするにはどうすればよいか』です。

最近、秋田だけではなく日本の農業は、農業人口が減少し高齢化は進み、明るい話題はあまり無いように感じられます。それに対してオーストラリアは農業生産物の輸出が多く、農業が盛んな様に思いました。そんなオーストラリアには、大仙の農業を元気にするヒントがあるだろうと思いそれを調べることにしました。

・研究テーマについて

オーストラリアの農業と、秋田（日本）の農業とではどこが違うのか。僕はこの二つを比較してみました。まず両者の決定的な違いは農地の広さです。国土の面積が広大なオーストラリアでは、農家の規模がとても大きいだろうとは思っていましたが、実際に現地で見えてみて、その広さにとても驚きました。オーストラリアの一户当たりの平均農地面積は、日本の約1990倍もあるのだそうです。



一面に広がる牧草地

農業の内容も日本とは大きく違いました。日本は水田や畑作が主流ですが、ケアンズ周辺では、大規模な畑はサトウキビ畑ぐらいでした。かわりに一面に広がっていたのは前ページの写真のような牧草地でした。飼われているのは羊や牛などです。広い土地があるので放牧が行われているそうです。それには、オーストラリアは乾燥していて農作物が育たないという理由もあるのだそうです。

このように秋田とはずいぶん環境の違うオーストラリアの農業ですが、実際に働いている人はどうなのかマリタさんや現地のスタッフに色々質問してみました。近年日本では農家の高齢化が進んできていますが、それはオーストラリアでも同じだそうです。「仕事が大変なので若い人がやりたがらない」と話していましたが、これは日本と同じだと思いました。また何年かに一度干ばつに襲われ、まったく収穫の無い年があるのも農業が敬遠される理由のひとつの事でした。



ホームステイ先の貯水タンク

実際、水不足が深刻で、水道水は使いすぎると止められてしまうそうです。僕たちも滞在中はシャワーに使える水が少なく不便を感じました。また農業で必要な水を得るために、ホームステイ先にも貯水タンクがありました。秋田では水を使えないなどという経験がなかったので、5分くらいのシャワー時間では体さえ満足に洗えませんでした。作物を育てていても雨が降らなくて枯れてしまったらどんなにつらいだろうと思いました。

オーストラリアの農業も、自分が思っていたよりも大変なのだなと思いました。

それに比べると秋田県は水も豊富で、大きな災害に見舞われることも少なく、おいしいお米や作物を作るのには本当に適していて、「恵まれた土地」なのだと改めて思いました。土地が狭いという点は大変ですが、環境は大いに恵まれているので、地域の人たちが協力し合う事によって大きな規模で作物の栽培ができれば、大仙の農業はもっと豊かになるのではと思いました。



農場のバッファロー



農場でとれた野菜や果物や肉の食卓

・オーストラリアでの出来事

1日目、僕は期待と不安に胸をふくらませ、仙台空港を飛び立ちました。

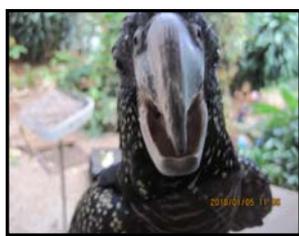
ようやくオーストラリアに着いた時にはもう翌日になっていましたが、それでも興奮で目は冴えていました。それから車で2時間山を登り、夜中の3時頃、1日目の滞在先であるマンガリーフォールズに到着しました。



2日目、世界遺産の一部である恐竜の時代からあるという森を散策し、その後川で泳ぎました。その森にはシダ植物や着生植物など、色々と珍しい植物がたくさんありました。



3日目、いよいよホームステイ初日です。ホームステイ先のハンズさんが迎えに来てくれました。ホームステイ先の家にはプールもあり、1歳なのに体重70キロもあるペットの犬「ナゲット」や、「HELLO～」と鳴くインコや、かわいい子豚など、沢山の動物がいました。



4・5日目は滝巡りや買い物をしました。こんな珍しい木もありました。

このころ食べ過ぎたのか、食べ物が合わなかったのか、お腹を壊してしまいました。でも、マリタさんが作ってくれたちょっと苦いお茶と、おかゆのような食べ物のおかげですぐに元気になることができました。マリタさんにはとても親切にいただきました。



雄大くんが日本から持ってきてくれた味噌汁をホームステイ先の皆と食べたときには、あらためて日本食の良さに気が付きました。

6日目、ハンズさん、マリタさんとお別れをして、マンガリーフォールズに戻りました。この日は地元の子供たちと会い、障害物競走やウオーターライダーやアーチェリーなどを共に楽しみました。僕も子供たちも泥まみれになって遊んで、Tシャツがひとつだめになりましたが、それ以上に価値のある楽しい時間でした。夕食後はみ

んなでダンスをしたり、楽しい時間をすごしました。

7日目 船でグリーン島に渡りました。

グレートバリアリーフのさんご礁を、底がガラス張りの船の中から見ることができました。

島で食べたお昼ご飯では、日本米ではないけれども久しぶりに米を食べることができてうれしかったです。オーストラリアは夏なので、メロンにスイカにパイナップルと、たくさん旬のフルーツを食べることも出来ました。

その後は海水浴も楽しむことができ、本当は冬なのに海にいると思うと、とてもいい気分でした。その夜オーストラリアではじめて泊まったホテルも立派なホテルで、のんびりとテレビを見ることも出来てよかったです。



最終日 キュランダ鉄道に乗ってキュランダ溪谷に行きました。水陸両用車に乗ったり、コアラを抱いたり、オーストラリアの先住民アボリジニにも会ったりした後、夜は買い物をし、そのままケアンズ空港、飛行機で眠りながら気付けばもう仙台。あっという間に秋田に帰って来てしまいました。飛行機の中ではオーストラリアでの疲れを全て取るかのようにぐっすり眠りました。



・まとめ

今回のオーストラリア研修では、農業について色々と調べたり、水不足という世界の環境問題の影響をまともに受けているオーストラリアの暮らしを体感し、これからの生活、そして生きていく上での知恵、考えなどを深めることができ、そういった面でもとても良い体験になりました。

また、日本を初めて離れて日本の良さを再認識することが出来ました。日本の食・環境などの素晴らしい面にも沢山気が付くことができました。秋田は寒いですが、やはり帰って来てみると秋田はいいなあと改めて感じました。

最後に、この素晴らしい日々でお世話になった多くの方々、そして共に研修に参加した仲間たち、そして研修に送り出してくれた家族に心から感謝したいと思います。

オーストラリアの食生活について

No. 5 大曲中学校 佐藤 和羽

I. はじめに

私は、大仙市立中学校生徒海外派遣に応募しました。英語が好きだし、自分の英語で他国の人とかかわってみたかったからです。また、将来役に立つのではないかとも思いました。行けることが決まったときはとても嬉しかったです。

II. テーマ設定について

私は今回オーストラリアに行くにあたって「食生活」に関心を持ちました。日本とは違う環境の中で、日本と食生活がどのように違うか、どのようなメニューが出るのか、などいろいろな興味がわいてきました。

III. オーストラリアに着いて

最初はいろいろと不安でいっぱいでした。でもオーストラリアと一緒にいく友達と話すうちにその不安も消え、わくわくした気持ちになりました。オーストラリアに着くと、その景色や暑さから「オーストラリアに来た！」という実感が湧いてきて、1週間の滞在に期待と楽しみな気持ちでいっぱいでした。

IV. 食について

①これはロッジでの朝食です。この日のメニューは、シリアル・ミネストローネ・パン・フルーツでした。フルーツは、りんごとオレンジの2種類があり、食べたい人は自分でそれを切って食べるという形式になっていました。

→このような形式だと残りものが少なくすみ、生ごみが減ると思います。シリアルなど長持ちするものは、残っても捨てなくてもいいので、これも生ごみを減らすひとつの方法だと思

いました。フルーツもカットされたものではなくて、そのままの形でおかれているため、余ってもまた食べることができます。



ロッジの昼食は、ハンバーガーでした。パンの中に好きな具をはさんで食べました。具は、トマト・たまねぎ・レタスなどでした。夕食は、スパゲティー・サラダ・フルーツでした。

<ロッジの食事を通じて>

基本的に全てセルフサービス形式になっていました。残ってもまた使えるものも多く、ごみが出にくいと思えました。また、朝食は全て同じメニューでした。そのため、必要以上に買わなくてすみ、ごみを出す量を増やさずにすむというメリットがあります。

<ファームステイ先では>

これは、ファームステイ先で食べた夕食の写真です。

この日はピザとシナモンのタルトでした。また、他の日にはマンゴーや、オーストラリア産のお米も出ました。

オーストラリアのお米はパサパサしていて、日本のお米よりも縦長でした。



<ファームステイ先の食事を通じて>

全体的に量が多く、肉料理がほとんどで油っこいと感じました。

余ってしまったものは再利用されていて、余った生肉は犬のえさになっていたことにとっても驚きました。

その他のごみ（マンゴーの皮・ピーマンなどの野菜）はまとめてバケツに入れ、飼育しているにわたりのエサにしていました（下の写真）。そのため、生ごみの量がとても少なかったです。

<キッチンの様子>

キッチンには水道・冷蔵庫ともに2つずつありました。

余ったものは、アイスのパックのようなものに入れて、冷蔵庫に保存していました。

ソースなどの調味料もたくさんありました。

食べ終わった後の食器は直接洗剤で洗うのではなく、汚れを落とす程度に軽く水洗いして、食洗機に入れて夜にまとめて洗っていました。

キッチンには、洗剤が見あたりませんでした。



→水を大切にしているため、日本のように直接洗うのではなく食洗機で洗っているのではないかなと思いました。

また、水道によってでてくる水が違うということにも驚きました。

<ホテル・グリーン島・キュランダ溪谷では>

3か所ともバイキングになっていて、肉料理が中心でした。

これは、キュランダ溪谷のバイキングの写真です。

ホテルの料理のメインディッシュは、インドの「タンドリーチキン」というものでした。



②味付けについて

ほとんどの料理の味が濃いと思いました。特に BBQ やハンバーガーなどの肉料理の味が濃く、油っこいと感じました。

ソースは、ソイソース・トマトソース・テリヤキソース・チリソースなど、たくさんの種類がありました。

バイキングの時は、最初から味付けされたものではなく、自分でソースなどをかけて食べるものが多かったです。

また、生のものはほとんどなく、焼いたものが多かったです。

③オーストラリアの食についてのまとめ・気づいたこと

- ・オーストラリアの食べ物は、パンと肉料理などの油っこいものが多いなあと思いました。
- ・普段日本では、はしを使って食事をしていますが、オーストラリアではフォークやナイフを使って食事をしていました。
- ・朝食はけっこう簡単なものが多かったです。
- ・日本では昔から魚が主菜ですが、オーストラリアでは肉が主菜でした。
- ・うす味のものが少なく、ほとんどが濃い味付けをされていました。
- ・外国のシリアルは、そのままだと結構うす味なため、砂糖をかけて食べました。
- ・マンゴーなどのくだものを自分の家で育てている家がたくさんありました。
- ・オーストラリアでは土地が安く、敷地がとても広いため、家で牛やにわとりなどを飼っている家がたくさんありました。
- ・肉料理が多かったけれど、ステイ先の料理はとてもおいしかったです。

V. ファームステイ先について

①ファームステイ先での「いただきます！」

ファームステイ先では、ご飯を食べる前に座ってみんなで手をつなぎ、目を閉じてステ

イ先のパパが決まった言葉を言ってから食べました。聞き取れない部分もありましたが、食べ物に対する感謝の気持ちがあるんだなと思いました。オーストラリアは、水をとても大切にしている国ですが、水だけでなく、食べ物も大事にしていることがわかりました。普段の生活の中で私たちが忘れがちな“感謝の気持ち”を忘れずにいる事が伝わってきてとても心に残りました。

世界中には食べることさえままならない人たちもいる中で、私たちはとても恵まれた生活を送っていると思います。今は「食べられて当たり前」と思っている人がほとんどです。でも世界中には、病気で苦しんでいたたり、食べる物がなくて空腹に耐えている人がたくさんいます。私たちは、感謝の気持ちを忘れずに毎日食べ物や水を大事にしているオーストラリアの人たちに比べ、特に不自由のない恵まれた暮らしの中で感謝の気持ちを忘れてしまっていると思いました。

食料がなくなり食べられなくなってから、そのありがたさに気づくのでは遅いと思います。だから、しっかり感謝の気持ちを持ちたいと思いました。

②ファームステイ先での思い出

私がファームステイで思い出に残っているのは、2日目に行った BBQ です。湖のすぐそばにある公園で、自然がとてもきれいな場所でした。BBQ といっても日本でやっているような BBQ とは違い、焼いた肉をパンにはさんで食べるという、ハンバーガーのようなもので驚きました。

家に帰り、にわとりに野菜やフルーツの皮などをあげていたり、犬に生肉をあげていたりするのを見てとても驚き、日本では見ない光景だなと思いました。

3日目は、ショッピングに出かけました。オーストラリアのスーパーや日本にもあるマクドナルド、小物屋さんなど、いろいろな所に行きました。その時にステイ先のママが私達に買ってくれたオーストラリアの帽子は、今でも記念として大事にしています。いろいろなことがあり、楽しくとても充実した3泊4日のファームステイでした！

VI. 感想

初めての海外で、最初は不安な気持ちもあったけれど、充実した楽しい日々を過ごせました。たくさんの思い出ができて本当によかったです。

また、外国の人と英語で話したり、コミュニケーションをとったり、ファームステイをしたりといった貴重な体験もできてよかったです。

海外には頻繁に行けるものではないし、もしかしたら一生に一度の体験かもしれません。だから、今回の海外研修で学んだことを、これからの生活の中や、将来のために生かしていきたいと思います。またこういう機会があれば体験してみたいと思いました。



オーストラリアの自然環境について

No.6 大曲中学校 佐藤 静

① はじめに

私は、以前から英語や外国の生活、文化の違いに興味があり、「今まで勉強してきた自分の英語がどこまで通じるか、ということを試してみたい」「外国の生活を実際に体験し、異文化にふれてみたい」と思い、この海外派遣事業に参加しました。大自然に囲まれた生活の中では、たくさんの発見がありました。

② 自主研究テーマ

私は、今までの自分の生活をふり返り、環境問題への意識・取り組みが甘く、水・ゴミ・エネルギーの「無駄」が多いと思いました。そこで、

「大仙市の水・ゴミ・エネルギーの無駄をなくすにはどうすべきか?」

というテーマを設定しました。環境保護の取り組みについて、ゴミの分別、水やエネルギーの節約の工夫、動植物・自然保護の取り組みなどを詳しく調べました。

③ 調べた内容

- (1) ゴミの分別について
- (2) 水・ゴミ・エネルギーの節約の工夫について
- (3) 動植物・自然保護の取り組みについて



(1) ゴミの分別について

私は、ファームステイ先でオーストラリアのゴミの分別について聞きました。そして、大仙市のゴミの分別方法と比較しました。

オーストラリア	日本 (大仙市)
一般ゴミ (日本でいうと燃やせるゴミ)	燃やせるゴミ
リサイクルゴミ (金属、びん、ボトル等)	燃やせないゴミ
	資源ゴミ
(粗大ゴミ)	(粗大ゴミ)

街のいたるところにゴミ箱がありました。ポイ捨てでもありませんでした。

(2) 水・ゴミ・エネルギーの節約の工夫

水について

水の節約について調べるために、入浴時間を調べました。オーストラリアの平均入浴時間は 5 分と、短かく、入浴方法も、湯船につかるのではなくシャワーで素早くすませるといのが多かったです。そして、外に大きな貯水用タンクがある家が多いということです。

ゴミについて

ファームステイ先では、ゴミを減らすために玉子のカラ以外の残飯は、家で飼っている

ニワトリ達に餌としてあげていました。ペットボトルは水筒のように繰り返し使っていました。

エネルギー（電気）について

私が行った家では、こまめな節電を心がけていました。ホストファミリーに、風力発電をしているところに連れて行ってもらいました。



←風力発電をしている
風車

ニワトリ→



(3) 動植物・自然保護の取り組み

ケアンズには、世界遺産にも登録されている世界最古の熱帯雨林やサンゴ礁があります。数々の滝や巨木などもありますが、どれもそのままの形で保存されています。

また、オーストラリアでは、コアラをとっても大切にしている、コアラを抱くことを禁止している地域が多いそうです。しかしケアンズでは次のような条件をつけて、許可しているそうです。



- ・ 1匹のコアラを抱くことができる時間は一日30分
- ・ コアラは、3日間働いたら4日間休ませる

なぜ禁止している地域や条件があるかという、抱くことによってコアラにストレスがかかると思う学者が増えてきたからだそうです。

(4) まとめ

オーストラリアの人々は、動植物・自然を心から愛していることが分かりました。水も貴重なものとして扱っていました。しかし、オーストラリアと大仙市のゴミの分別を比較すると、オーストラリアのゴミの分別は日本ほど細かくないということが分かりました。節電の取り組みも、日本とあまり変わりませんでした。大自然あふれる国、オーストラリアではもっとゴミの分別や節電などに力を入れていると思いましたが、実際は違いました。しかし、ポイ捨てが少ないこと、自然を心から愛すること、水を大切に使うこと、そして環境に対する意識の高さは私たち日本人も見習うべきだと思いました。

④ エピソード

(1) マンガリーフオールズでの出来事

マンガリーでは見たこともない植物や、水道の水が飲めないということに驚き、日本との違いを実感しました。マンガリーには「ユリスス」という青い蝶がいて、「1回見ると幸せになる、2回見ると幸せがもとに戻る、3回見るとお金持ちになる」という言い伝えがあるそうです。私はその蝶を3回目撃できました。夕方からは、カモノハシ探索に

行きました。私たちは運よくカモノハシを見ることができて嬉しかったです。夜は土ボタルを見て、このような珍しい生物が生き延びていくための知恵を学び、感動しました。現地学生との交流では障害物競走、イカダ作り、ウォータースライダー、ダンスなどを一緒に体験できて楽しかったです。

(2) ファームステイでの出来事

ファームステイは、研修の中で一番思い出に残りました。私たちは Ross (ロス) ファミリーの一員として 3 日間を過ごしました。家には和風の湯のみや緑茶などがあり、日本文化への関心の高さが感じられました。

家族紹介

父：グレン (右端)

陽気でとてもおもしろい人でした。朝早く仕事に行き、夕方に帰ってきました。

母：スー (右から2番目)

マンガリー自然の家のキッチンC A P を務めているということもあり、料理が上手でした。行動力があって、楽しかったです。

娘：クリスタル (14 歳) (左端)

私は、年齢を聞いて驚きました。身長が大きく、同い年とは思えませんでした。私たちに色々なことを教えてくれました。

息子：ダニエル (11 歳) (左から2番目)

積極的に話しかけてくれました。年が近いということもあり、すごく仲良くなりました。

ペット：犬1匹、猫1匹、トカゲ数匹、インコ数匹、ニワトリ達

家は、マンガリーフォールズから車で20分の山の中にありました。家の周りには木(林)と道路しかありませんでした。そのせいか、野生のワラビー、カラフルな鳥、その他色々な動物がよく家に訪れました。



家に着き、日本のおみやげ (せんべい、紙風船、けん玉等) を渡したら、スーからもブレスレットをプレゼントしてくれました。昼食を食べた後、家のプールに入りました。夜は、星空観察をしました。日本では見ることの出来ない満天の星空はすごかったです。2日目は、湖に行って泳ぎました。夜は習字をしました。私が当て字にして書いたのは「グレン」と「スー」です。その他にも自分の好きな言葉を言ってもらって、実際に漢字で書いてもらいました。書道の楽しさを伝えることができてよかったです。そろそろ英語にも耳慣れ



してきました。



←これは私たちが泊まった部屋にあった Wii です。私がピアノで日本のゲームの音楽を弾いて聴かせたら子供達が喜んでくれました。日本のゲームは、海外でも人気があるということが分かりました。その他に「さくら」など日本の伝統的な曲も弾いたら、ホストファミリーはみんな日本の音楽に聴き入っていました。



3 日目の朝、私たちだけで日本料理をつくりました。メニューは「たまご焼き」「肉じゃが」「そうめん」「緑茶」そして「チョコレートフォンデュ」でした。料理は大成功でした。4人で協力して「日本の味」を出すことができた力作です。この日は、観光名所巡りをしたり、買い物に連れて行ってもらったりした後、滝のある池で泳ぎました。オーストラリアの車のスピードは速くて（平均 100km/h）、ドライブも楽しかったです。また、日本車が意外に多かったです。私のホストファミリーの車は「日産」の車でした。最後の夜ご飯は、バーベキューでした。夕食の後には、みんなで記念撮影や色々な話をして盛り上がりました。そして 4 日目、ついにお別れの日がやって来ました。朝食を食べていたら、タランチュラのような大きいクモが 2 匹出てきてびっくりしました。

3 日間で仲良くなり、絆が深まったばかりなのににお別れするのは残念でした。もっと居たかったです。しかし、みんな最後まで笑顔で見送ってくれて本当に嬉しかったです（スーはその後マンガリー自然の家で仕事をしていました）。

(3) グリーン島、キュランダでの出来事

サンゴ礁→

1 月 9 日、グリーン島に行きました。世界遺産のグレートバリアリーフを間近で見ました。きれいな水色の海で泳いで楽しかったです。



1 月 10 日は、キュランダ高原列車に乗り、キュランダ村に行きました。水陸両用車に乗って、「本物のジャングルクルーズ」をしました。色々な動物や植物を見ました。その後、オーストラリアの先住民アボリジニの民族楽器（ディジュリドゥ）、ブーメラン投げの実演を見たり、実際にブーメラン投げを体験したりしました。最後に見たアボリジニのダンスショーでは、オーストラリアの広大な自然や歴史を感じさせられました。

⑤ 感想・まとめ

私は、今回の海外研修で、オーストラリアと日本との違いをたくさん見つけてくることができました。興味があった異文化の中での生活も、実際に体験し、実感することができてよかったです。

また、「コミュニケーションの大切さ」も学びました。英語を使っての生活は、不便なこともたくさんありましたが、相手に伝えようとするれば必ず伝わるということが分かりました。学校を越え、国境を越え、たくさんの友達ことができました。色々な人と話せて、楽しかったです。



今回の研修では、色々な分野で視野を広げることができました。この経験を、今後の生活に生かし、これからも色々な事に挑戦していきたいです。そして、今回学んだことを、周りの人にも伝えていきたいです。

We are very much looking forward to seeing our host families today.

We can't speak English well, but we will do our best.

We want to make good memories during our stay.

面会式の挨拶を終え、僕は1月5日から8日までファームステイをしてきました。

ホストファミリー(お世話になったPeake家)

父・・・ロバート

普段はすごくパワフル。

ファームの仕事をするときは真剣。

クリケットという野球に似たスポーツが大好き。

母・・・ターニャ

料理上手で(カレーチキンからケーキまで)とても優しい。

長女・・・リア

とにかく元気！！ハイジみたい。英語を少し教えてくれた。

次女・・・イザベラ

生後6週間。あまり泣かないお利口さん。



ファームの仕事



ロバートさんは、オーストラリアで唯一の大規模水牛農場を運営していて、水牛からとった乳をチーズ工場などに販売していました。ちなみにこの農場は、雑誌に載るぐらい有名！

僕たちが手伝わせていただいた仕事

① 水牛ミルクを入れるダンボール作り
200箱作った

② 乳搾りの為、牛舎へ追い込む
柵無しの水牛は怖かった

③ 乳搾りの手伝い
機械をつけるために水牛の足を
ロープで固定する

④ 水牛ミルクをトラックへ積み込み
冷蔵庫からダンボール詰めされた水牛ミルクを運ぶ

⑤ 子牛の世話 干草と餌とミルクを与え、牛舎を掃除

⑥ 倉庫の片付け・ゴミ捨て

農場の仕事は他にもいろいろありますが、普段はロバートさんと2人の従業員の3人で毎朝4時から作業しているそうです。僕たちは毎朝6時から午前中だけの仕事でした。



はじめからはじめでがわからないくらい広大な農場、今まで見たこともない大きさのトラクター、迫力ある水牛、いろいろなものに驚きました。仕事は何もかもがはじめてで、1日目より2日目と段々慣れましたが、生き物を相手にしているから大変でした。それに真夏の暑さも加わってきつい作業でした。これを毎日続けているロバートさんはすごいと思いました。



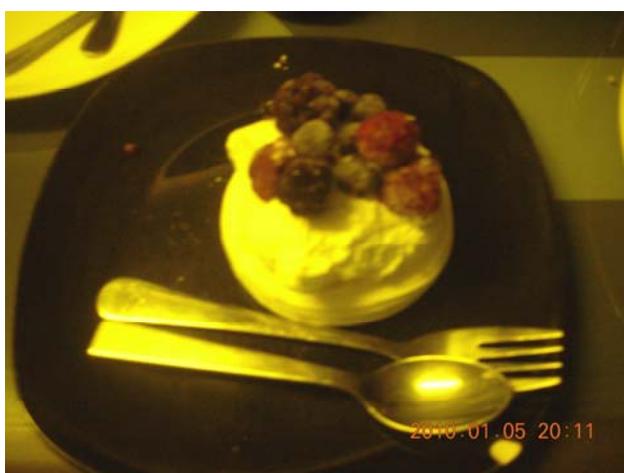
よく食べた物

朝食・・・トースト、シリアル、フルーツジュース

昼食・・・ハム(ぶ厚くて、すごく大きい)、パン、サラダ、ジュース

夕食・・・バーベキュー(牛肉ステーキ、ソーセージ)、バーガーパン、手作りケーキ

朝食・昼食は軽めだったので、夏バテ気味の僕にぴったりでした。夕食のバーベキューは屋外の大きなグリルでやりました。いろいろな具材がテーブルに並んでいて、自分でハンバーガーを作って食べました。ターニャさんの手作りケーキも絶品でした。とてもおいしかったです。そして毎食いただいた『自家製ラズベリーサイダー』は、日本のものとは違う、スッキリとしたのどごしで、大好きになってしまいました。



Millaa Millaaの街

街には商店街のような様々な店がありました。

ロバートさんに連れていってもらったお気に入りの場所を紹介します。

博物館……昔使われていた家具や勉強道具や新聞などがきれいに保存されていて、展示物と見学者との間に仕切りがありませんでした。展示物への説明書きはありませんでしたが、館長さんが1つ1つ手にとって説明してくれました。

パイ屋さん……ミートパイがすごくおいしかったです。

スーパー……規模は日本と同じくらいで、フルーツがたくさん置いてありました。レジの人がお客さんととても仲良しで、接客の間、楽しそうに話をしていました。



Millaa Millaa Falls

街のシンボルの滝です。滝つぼが広くて深い、誰でも自由に泳いで良い天然のプールでした。水がきれいでとても気持ちよかったです。

ファームステイを終えて

今回のファームステイでは、オーストラリアと日本の違いを肌で感じることができ、これから生きていくうえでの視野が広がった貴重な体験となりました。そして何より、僕たちを受け入れてくださったロバートさん一家には感謝の気持ちでいっぱいです。

“Thank you very much.”

《 自主研究テーマ 》

「みんなが住みやすい街づくりのため、マナー向上に対する取り組みはどうあるべきか」

★オーストラリアでみつけた日本との違い★

- ・公共のものを大切にしている。
- ・商店が集まっていて買い物の効率が良い。
- ・裸足で街を歩いている人がいた。
- ・道路の中央が中央分離帯ではなく駐車スペースになっている。
しかも、白線からはみだして駐車している人が誰もいなかった。
- ・店員さんや博物館の館長さんがすごくきさくで、いろいろ話してくれて楽しい。
- ・ゴミの削減のため、自動販売機があまりない。
- ・伝えたい事は、声に出して “Yes” “No” はっきり言う。
- ・レディファースト



☆オーストラリアのマナーの基本☆

『自分1人だけじゃ生きていけない。他の人の事を考える』

オーストラリアは昔イギリスの流刑植民地で、イギリスの囚人がたくさんいました。家族や友人などから離され、見知らぬ土地に流れ着いたのです。そんな状況の中で生きていくには、お互いに協力しないとはいけませんでした。そこでこの考えが生まれ、自然にオーストラリアの人たちに広まっていったそうです。

僕がオーストラリアで過ごした短い期間の中でも、困っている人に自然に手をかしたりということをよくみかけました。また、挨拶や接客がとても良く、すがすがしい気持ちになりました。ゴミがあまり出ないように工夫しているし、公共の物、場所をととてもきれいにしていました。次の人、周りの人への思いやりをととても感じました。

そして、1番心に残っているのが“Millaa Millaa Falls”の公衆トイレです。水着に着替えるためトイレのドアを開けた瞬間、自分の靴底の汚れを確認してしまいました。家の床と見間違えるほどきれいな床、傷1つない壁。新品同様の便器。空間全体から、清潔感があふれていました。

★☆ マナー向上のために必要な事 ☆★

1人1人がこの「自分1人だけじゃ生きていけない。他の人の事を考える」という気持ちを常にもって生活する。そのために、普段から挨拶や会話などで人とのつながりを大切にすることが大事ではないでしょうか。

オーストラリアの食生活

大曲中 No.8 田口茉由子

私は1月3日～11日まで、オーストラリアのケアンズという街に行ってきました。

小さい頃から「海外」にとっても興味があり、ずっと行きたいと思っていたので、参加できたことをとても嬉しく思います。

今回のテーマ設定の理由は、日本との「食の違い」や「残飯の量」に興味があり、くわしく調べてみたいと思ったからです。



☆MUNGALLI FALLS☆

はじめに行ったところは、MUNGALLI FALLSのロッジです。現地スタッフと熱帯雨林散策や川泳ぎなどをしました。熱帯雨林の中は様々な生き物たちや植物などが豊富でした。私は、ありのような虫に足をかまれてしまいました。



熱帯雨林散策と川遊びが終わった後はオーストラリアだけに棲息する『カモノハシ』の探索に行きました。

カモノハシはオーストラリアでも、約80%の人が見たことがないそうです！！でも私は運よくカモノハシを見ることができ、写真を撮ることもできました☆



☆MUNGALLI FALLS☆での【食】 (1日目)

朝・・・

パン・ミネストローネの Pasta
シリアル・りんご・オレンジ
オレンジジュース



昼・・・

ハンバーグ・レタス・トマト・チーズ
パイナップル・オレンジジュース



夜・・・

スパゲッティ・サラダ・パン
りんご・オレンジ・水



ファームステイ オーストラリアの生の暮らし・体験

☆FARM STAY☆

今回一番楽しみにしていたFARM STAYです

私のFARM STAY先は
おじいさんのJackとおばあさんのLindaの
2人暮らしの家でした。

犬のモーリィー・ウォーリィー・ナーリィー 
FARM STAY先にいた犬たちです。

この日はJackとLindaに
野生のカンガルーを見に
連れて行ってもらいました。
初めての野生のカンガルーに
私はびっくりしました。



モーリィー



ウォーリィー



ナーリィー

☆FARM STAY☆での【食】 (2日目)

昼...

パン・サラダ・たまご・肉
オレンジジュース



夜...

パン・ポテト・まめ・肉
オレンジジュース



FARM STAY先に孫のJodyとKimが遊びに来てくれました。

JodyとKimはFARM STAYの1日目と2日目の少しの間だけでしたが、2人とはとても
仲良くなりました。Kimは私に絵を描いてくれました。ペンギンのかわいい絵でした。
夜は一緒に星を見ました。オーストラリアの星と日本の星は全然違いました。
オーストラリアの星は空一面に広がっていました。空がとても近く感じられました。
JodyとKimは2日目のお昼に帰ってしまいました。

2日目のお昼からはJackとLindaの友達が
遊びに来てくれました。Lindaは私たち3人
を色々な人たちに紹介してくれました。
みんな明るく、やさしくて、積極的に話し
かけてくれました。すごく楽しかったです。



☆FARM STAY☆での【食】 (3日目)

朝...

パン・たまご・肉
ジャム・ハチミツ・マンゴー
ココアミルク



昼...

サンドウィッチ
たまご・サラダ・肉
オレンジジュース



夜...

サンドウィッチ
サラダ・肉・スパゲッティ
ジュース



この日の夜はBBQをやりました。
2日目はプールにも連れて行ってもらいました。
やっぱり外国なので深かったです。



3日目はLindaの兄妹の家に行きました。Lindaの兄妹はすごく多いのでビックリしました。
そしてこの日はお誕生日パーティーでした。
子供もたくさんいたので楽しかったです。



☆FARM STAY☆【食】 (4日目)

朝...

パン・たまご・肉
ジャム・マンゴー
ココアミルク



昼...

グラタン・サラダ・パン・肉
ケーキ・ジュース



夜...

ソーメン(日本食)
お茶



Coleman家では食べ残したものは、細かくして鳥のえさに使うそうです。

FARM STAY最後の日

3泊4日お世話になったJackとLindaとお別れをして
MUNGALLI FALLSに向かいました。

ドライマンゴー



❖現地学生との交流❖

MUNGALLI FALLSでは現地の学生との交流がありました。
午前はアーチェリー・ランドスライドをやりました。
午後は障害物競走をし、一番交流が深まりました。
夜には、オージーブッシュダンスをしました。
すごく楽しかったけど、すごく汗をかきました。



昼・・・

ピザ・サラダ・水



夜・・・

パン・肉・サラダ・ポテト・たまねぎ
りんご・オレンジ・水



グリーン島



グリーン島では、海水浴や、マリンスポーツを体験し
サンゴ礁を見ました。

海がとてもきれいでした！

BEAUTIFUL!!!!

キュランダ溪谷



キュランダ鉄道に乗って、キュランダ村に行きました。
キュランダ村では先住民の**アボリジニ**の人たちの
狩りの仕方・楽器・ダンスを見てきました。



下の写真が実際に踊ったり・楽器を
演奏している場面です。

アボリジニの人々の文化は、初めて見る
先住民族の文化だったので、
とても新鮮な気持ちで
思わず見入ってしまいました。

EXCITING!!!!

☆研修を終えて☆

今回の研修では、たくさんのことを学びました。

小さい頃から、「海外に行きたいな！！」と騒いでいた私も、ついに念願の海外進出をしました。

今回の研修に参加したことで海外への思いはますます強くなりました。

FARM STAY先では「オーストラリアに来たら、いつでもJACKLINPARKIに来なさい😊」と

言ってくれました。それを聞いて「オーストラリアにまた絶対に来たい」と思いました。

MUNGALLI FALLSでの様々な体験、現地学生との交流、グリーン島・キュランダ溪谷

での活動などたくさんの貴重な体験を、これから色々な面で生かせたらなと思います。

また、将来は海外で仕事をしたいと思っているので、色々な事に挑戦していきたいと思います。

オーストラリア レポート

No.9 大仙市立大曲西中学校

品川 真有

1. オーストラリアには自然がたくさん

私が、オーストラリアで一番最初に感じたのは、自然が豊かだということです。日本にもある程度の自然はありますが、オーストラリアの自然はとても広大なものでした。その、オーストラリアの自然の中からいくつか紹介します。↓

・熱帯雨林

日本では見られないような植物がある。触ったり、嗅いだりすると危険なものもある。熱帯雨林の中に、着生植物というものがあつた。一つの植物にもう一つの植物がくっついていて、バスケットファーンやエルクホーンファーンなどという種類があつた。



・カモ/ハシ

ホニュウ類だけが卵生。川などに生息しているが、とても見つけにくい。



・サンゴ礁

グレートバリアリーフは、日本の本州くらいの大きさがある。何種類ものサンゴ礁を見ることができた。

このことからわかったこと

- ・日本にはない植物が多く見られる。
- ・生物を育てていくためには、環境と植物の関係などを知る必要がある。
- ・日本においても良い環境づくりが大切である。

2 自主研究

テーマ できるだけ地産地消をし、食料自給率を上げるにはどうすべきか？

① テーマ設定の理由

日本でも地産地消をするために工夫をしているが、なかなか食料自給率が上がらない。
そこでオーストラリアではどういう工夫をしているか知れたかったから。
(食料自給率→オーストラリアは234% 日本は40%)

② 日本での地産地消の工夫

- ・スーパーマーケットによっては、生産者の顔写真を付けて、地物の野菜を置いているところもある。
- ・自分の家で食べる野菜や果物を自分の家で育てている。

③ 調べ方・調べた内容

・調べ方

インタビュー <マンガリーフォールズ自然の家で料理を作っているスタッフ・ホームステイ先のお母さん>

・調べた内容

Q1 食材は地元でとれたものですか。

Q2 できるだけこの地域のものを使おう(買おう)としていますか。

Q3 例えほどういったものですか。

☆ホームステイ先のお母さん

A1 (はい)

A2 (はい)

A3 (牛乳、野菜、ジュース、アイスクリーム、花、
ケーキ、スパイスなど)

この家庭では、果物、野菜やニワトリなどを育てていた。
そのため、玉子、果物、野菜は自宅でとれたものだった。



☆マンガリーフォールズ自然の家で料理を作っているスタッフ

A1 (はい)

A2 (いいえ) <地元の物だけではない。
安くていいものだったら、地元のもの
でなくても買う。>

A3 (牛乳、チーズ、卵、ヨーグルトなどの乳製品)

地産地消のために行った工夫

熱帯雨林には栄養分の豊富な土がある。そこで、牛を育てたら良い牛乳ができるのではと考え、熱帯雨林の一部を牧場にしたところ、おいしい牛乳ができるようになったそうだ。



わかったこと

- ・その地域の環境を知って、どういったものが良く育つか把握する必要があるということ。
- ・日本では、休耕田を有効に使い、少しでも多くの野菜を作ったほうが良い。
- ・広い世代の人達に農業に関心を持ってもらえるような工夫が必要。

3 ホームステイ日記

1日目

- ・ホームステイ先の家族と対面
- ・野菜の収穫の手伝い、
- ・にわとりのタマゴの収集(写真①)
- ・子牛へミルクをやる仕事(写真②)

2日目

- ・お昼ごはん BBQ
- ・機械で牛の乳しぼりをしているところを見学(写真③)

3日目

- ・ショッピング(商店街などに行った)

①



②



③

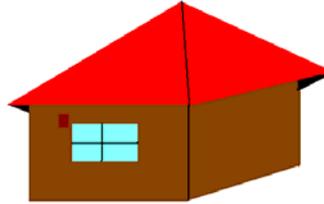


・ホームステイをしてみても

家畜の世話を体験してみて、改めて「食」の大切さが実感できました。

それから、言葉がなかなか通じなくて、とても大変でしたが、一緒に行った他の学校の人達と協力し、コミュニケーションをとろうと頑張ることができました。

言葉が通じなくても、ジェスチャーをしたり、アイコンタクトをしたりしてホームステイ先の家族と楽しい時間を共有することができ、とてもよかったです。



4 海外研修を終えて

オーストラリアの雄大な自然に囲まれ、心地よい環境の中で過ごした9日間はとても充実したものとなりました。オーストラリアは、日本より広々としていて、とてもゆっくりとした時間が流れていました。

私は、初海外ということもあり、不安もありましたが、ほかの学校の人達とも交流し仲良くなることができ、とても貴重な体験になったと思います。それから、以前よりも海外に対する関心が高まりました。今回の体験で学んだことを、これからの生活に生かしていきたいと思えます。

Australia Diary

No.10 平和中学校 黒川瞳

私は、生の英語に触れたいと思い海外派遣事業に応募しました。初めての海外でワクワクしました。出発の日が近づいてくるとワクワクした気持ちにドキドキが加わりました。

私と同じく中学生だった時に海外研修を経験した姉に大丈夫だと励まされ、また、一緒に行く仲間がいることを心強く思い、きっと大丈夫だ、楽しんでこようという気持ちで当日をむかえました。

★ ホームステイ ★

カーメルさんとボブさん

滞在したホームステイ先の二人のホストファミリーはとても優しく、ホームステイに対する私の不安を打ち消してくれました。トランプに誘ってくれたりショッピングに連れて行ってくれたりして、一緒に生活するのが楽しかったです。



初めは外国の人と暮らすなんて全く実感がありませんでしたが、気軽に話しかけてきてくれたのですぐに溶け込みました。ここでの生活で感じたのは食事の量が多いことと、一人当たりのシャワーの使用時間が約4分と、日本に比べてとても短いことで、最初は大変でした。また、家の敷地はとても広く、犬2匹、猫2匹、子牛2頭、それからにわとりも飼っていました。世話は夫婦で交代で行っていました。えさをあげたり、ミルクをあげたりして大変そうでしたが、二人共笑顔でその仕事をしていました。動物が好きだからできるんだなと思いました。



このように充実したホームステイでしたが、その中で何ととっても一番印象深かったのは、Hostmother が作る料理です。ミートパイやピザなどとてもおいしいものばかりでした。食後のデザートには、家で獲れたというマンゴーを食べさせてもらいました。今まで味わったことのない甘さで最高でした。



私達は、ホストファミリーにそうめんを作ってもらいました。二人共日本の箸で残さず食

べてくれました。

★マンガリーフォールズ★

私達が滞在したマンガリーフォールズでは、オーストラリア特有の植物を紹介してもらったり、オーストラリアだからこそ見られるという土ボタルを鑑賞しました。

植物の中で一番印象に残ったのは「ジンジャー」で、日本の「しょうが」にあたるものです。



これが「ジンジャー」！！
葉っぱの形はこんな感じ。
日本でも「しょうが」はブームに
なってるよね！！

「しょうが」は知っていてもどのような形をして育っているのか知らなかったの、見た時は驚きました。

そしてこの後行った「カモノハシ」探索では、何と、一瞬だけでしたが実物を見ることが出来ました。ほんの一瞬で写真を撮ることが出来なくて残念でしたが、オーストラリア人でさえ本物を見た人が少ないと聞いていたので、とても嬉しかったです。

夜ご飯を食べた後の土ボタル鑑賞では、世界の中でも限られた地域でしか見られないという淡い光を放つホタルを見ることが出来ました。普通のホタルのように点滅するのではなく、ずっと光っている姿はとてもきれいでした。

★キュランダ溪谷★

ここでは、溪谷を走るキュランダ鉄道に乗り、世界遺産の熱帯雨林を体感しました。緑であふれていて気持ちもすっきりしました。

この列車には青いへびが
描かれています。
私達は、2両目に乗車し
ました。



そしてこの後、本物のコアラを抱っこすることが出来ました。私達が行ったケアンズではまだ認められているコアラの抱っこですが、シドニーなどではコアラにストレスがたまってしまうという理由などで抱っこすることは出来ません。そんな貴重な体験をすることが出来て一生の思い出になりました。



ナイス！カメラ目線！
触った感じはふわふわ
でした。でも爪は鋭か
ったです。

★現地学生との交流★

5日目に現地学生との交流の機会がありました。2チームに分かれて障害物競走をした時に、言葉はうまく伝わらなくても「協力」することができて、お互いに助け合いながら無事ゴールすることが出来ました。それは今までに感じたことの無い不思議な感覚でした。ほとんど言葉が通じないのに共通の目標に向かって頑張ることは、心がつながっているようで、達成感を深く感じる事が出来ました。この後一緒に踊ったダンスも、笑いあり、楽しさありで、初めて会った時よりも距離が近くなった気がしました。

★自主研究★

私達は、オーストラリアに旅立つ前に学習会に参加し、全員が一人ずつ研究テーマを決めました。

■私のテーマ■

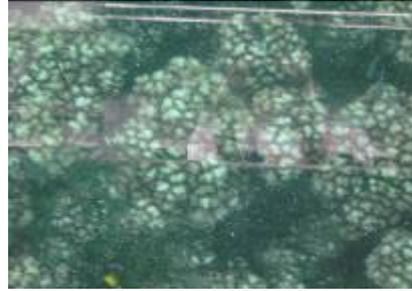
~自然環境を守るためにはどのような取り組みをするべきか?~

■テーマ設定の理由■

今、世界では地球温暖化などの自然破壊が問題になっています。そこで、日本とオーストラリアでの自然に対する意識はどう違うのか。また、私が住んでいる大仙市のために環境を守る取り組みとして参考になることはないかと考え、このテーマにしました。

■ 分かったこと ■

- 1、オーストラリアでは、水はとても貴重な資源だということで、節約を心がけていました。
- 2、世界遺産となっているサンゴ礁「グレートバリアリーフ」を温暖化によってなくさないために、CO₂の削減を世界に呼びかけているそうです。



- 3、私がお世話になったホームステイ先では、自分の家で出たフルーツの皮などの生ごみを飼っているにわとりにえさとして与えるなど、廃棄せずに利用して環境に配慮していました。

また、hostfather には、牛のフンはリサイクルされて堆肥や暖炉の燃料として使用されていると聞きました。



■ 感じたこと ■

オーストラリアでは、スーパーや道を歩く時も裸足でいる人が珍しくありませんでした。日本では考えられません。日本ではポイ捨てなどの環境に悪いことをする人が多くいますが、オーストラリアではそんなことは全くありませんでした。だから地面や床も汚くはないという意識から、裸足でふつうに歩いているそうです。私は最初、裸足で歩くななんて汚いなあと思いました。そうではなくて、ポイ捨てなど自分たちで環境を悪くしている日本のほうが、オーストラリアから学ばなければならないと思いました。

★最後に★

私はオーストラリアから帰ってから、自分に出来ること、例えばゴミをできるだけ少なくする工夫や、買い物に行く時はマイバッグを持っていく、シャワーの出っぱなしはし

ないなどの取り組みをスタートしています。小さいことですが、積み重ねていくときっと大きな成果につながると思います。大仙市でもこのような取り組みを一人ひとりがすれば、自然環境は守れると思います。一人ひとりが出来ることは、会社や市町村などができることにはかなわないけれども、まずは自分が活動してみるということが環境を守る第一歩になると思います。

9日間のオーストラリアの旅を終え、より広い視野で「自然」ということを考えることが出来るようになりました。取り組みを続けることにくじけそうになったら、ホームステイ先でのことや世界遺産の「グレートバリアリーフ」のことを思い出して継続させたいと思います。オーストラリアへ行って二度と経験出来ないような事ができてとても嬉しく思っています。この貴重な経験をこれからの生活に生かしていくことで、初めて100点満点の派遣事業効果になると思います。

*I had a good time !
“Thank you very much!”*

オーストラリア海外派遣事業に参加して

11番 大仙市立平和中学校 高橋 智大

I はじめに

今回、1月3日から1月11日の9日間にわたって実施された大仙市立中学校生徒海外派遣事業。その中で学んだ多くのことや実際に体験できたことなどは、自分にとっても非常に感慨深く一生忘れられない思い出となりました。このレポートは、次回の参加者にとって少しでも参考になればという思いもこめながらまとめてみました。

II 研修のテーマと設定の理由

僕のテーマは「ボランティア活動を通して、もっと市を大切にするにはどうするべきか」ということです。このテーマにした理由は、最近の日本では、平気でゴミを捨てる人や、困っている人を助けてあげないような人が増えてきているように感じられるからです。

今回の研修では、オーストラリアの人々がどのような形でボランティアの精神を育てているのか、またそれが市や町にどのような影響を及ぼしているのかを、ホストファミリーとの生活を通して知りたいと思いました。

III 調べた内容

1 現地のボランティア活動について

- (1) 現地に行って最初に驚いたことは、町の隅々にゴミ箱が設置されていたことです。目に見える範囲には、必ずといっていいほど2・3個は設置されていました。「どうしてかな？」と思い町の人に聞いてみると、「みんな落ちているゴミが嫌いだから、すぐゴミ箱に捨てたくなるんだ」と言う答えが返ってきました。町にゴミが一つも落ちていない理由はそういうことだったのです。
- (2) もう一つ驚いたのは、周りの人達がいろんなことで常に助け合っていたことです。困っている人がいても、必ず近くの誰かが助けてくれる。それがごく普通に、なんの躊躇もなく、あたりまえのように行われていたことがとても新鮮でした。

2 調べた感想

日本では、ボランティア活動（奉仕活動）と言うといかにも改まった、むずかしい活動のように感じられたのですが、オーストラリアの人達にとっては、それがごく当たり前のことであり、日常的なことになっていたのです。

僕達も原点に戻って、“人や物に対する優しさとは何か”を一度考え直す必要があるのではと感じました。

IV エピソード

1 マンガリーフォールズにて・・・

オーストラリアでは、最初にマンガリーフォールズというところに宿泊し、ウォーターフォールカフェとよばれる食堂で朝食を食べました。まわりには小さな滝(※図1)や、たくさんの木々がありました。

午後には、川泳ぎや熱帯雨林散策をしました。楽しい時間を過ごすことができたのでとてもよかったです。

その後、珍獣「カモノハシ」探索に行きましたが、1時間待っても現れません。諦めかけていたその時!!ほんの一瞬「カモノハシ」が浮かび上がってきて見ることができました。本当によかったです。

後で知ったことですが「カモノハシ」は5秒間位しか水面に顔を出さないとか・・・。ラッキーでした。

2 オーストラリアの現地学生との交流

マンガリーフォールズでは現地の学生達と交流しました。一緒に障害物競走や川泳ぎ(※図2)、アーチェリーなどをして楽しみました。学生達の英語はかなり早口で戸惑いましたが、どうにかコミュニケーションをとることができたと思います。

一緒に昼食をとった時には、少しでも英語で会話をして、みんなのことを理解できるよう努めました。

また、夜は、一緒にダンスを踊ったり、英語で歌を歌ったりして、さらに交流を深めることができました。

マンガリーフォールズで過ごしてみて

どこを見渡しても「自然」がたくさんあって、とても安らかな気持ちになれる、そんなところです。周りを見るとワラビーがいる、また耳をすませば鳥のさえずりが聞こえるという、とても落ち着いた環境で過ごすことが出来ました。

マンガリーフォールズでは数えきれないほどの楽しい思い出ができました。心のアルバムに大切にしまっておきたいと思います。

3 ファームステイ先での出来事

僕達5人は、VOSSファミリーのお宅にファームステイしました。家に着いた時、玄関に犬がいて僕達を歓迎してくれました。その後、牛の解体ショーが始まって、僕達はそれを見学しました。昼食は戸外で食べました。食後にはVOSS家で栽培している果物がたくさんできてきて、日本にはない「スターフルーツ」(※図3)というものを初めて食べました。少し酸っぱくて不思議な味がしました。最初の夕食の時、僕はポテトを落としてしまいましたが、家族は優しく「心配ないから座って」と言ってくれ、また、トイレに行きたかった時も、声をかけたら「言わなくていいよ、ここはあなたの家なんだから」と言われ、ファミリーの一員として認められているんだなど、すごく感動しました。

このVOSS家には、5年位前からいろんな人たちが訪れていて、今までにたくさんの海外派遣生等を引き受けているということだったので、フレンドリーな関係の中でも家事を手伝ったりして、少しでも家族に溶け込めるように努力し、また、実行できた

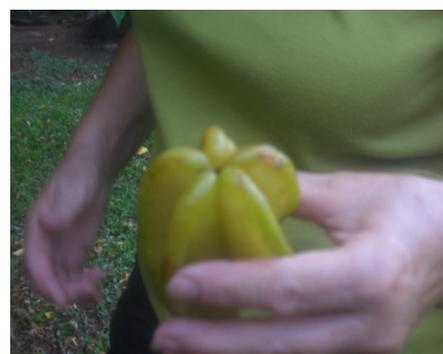
図 1



図 2



図 3



と思います。

ファームステイ 2 日目は、ホストファミリーが買い物に連れて行ってくれました。目の前に広がるのはとても綺麗な街並みで、僕達は街中を歩いて散策しましたが、やっぱりどこを見てもゴミ箱が設置されていて、周りにゴミがひとつもありません。日常的に町を綺麗に保っていることが非常に強く感じられ印象的でした。

ジュエリーショップでお土産を購入し、ホビーショップでは、店内をゆっくりと見渡す余裕も出来ました。日本人観光客や日本人の店員さんが結構多いことに驚きました。

ファームステイ 3 日目は、いろいろな滝を見に連れて行ってくれました。どの滝も本当に綺麗で迫力がありました。

(※図 4)

帰宅してから外でトランポリンやバドミントンをして遊びました。夕食は皆でビーフステーキを食べました。とても美味しかったです。その後は、夜の 11 時までボードゲームで遊びました。ちょっと眠かったです。

ゲームの後ホストファミリーに誘われて、夜の 11 時頃にしか咲かない花を見せてもらいました。9 時頃はまだ蕾だったのですが、その 2 時間後に咲いた花がこれです。とても綺麗で幻想的でした。(※図 5)

そして、みんなでとても綺麗な星空を観賞しました。

ファームステイ 4 日目の朝、僕達は V O S S 家の人達と別れの挨拶をして帰路につきました。長いようでとても短い 3 日間。嬉しかったのは、僕達を自分の家族同様に扱ってくれたことや、必死に英語を話したら意味が通じたことです。僕達の英語をしっかりと受け止めてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。この 3 日間のファームステイでは、これ以外にも語りつくせないほどのたくさんの思い出が出来ました。ここでの体験を、将来何らかの形で活かせるように頑張りたいと思います。

図 4

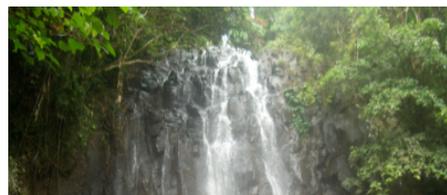


図 5



V 海外研修を終えて

この研修では、一緒に参加した他校の生徒とも深い友好関係を築くことができました。最初は何もかも不安だらけで緊張していましたが、行動を共にしたことでさらに親しくなり、オーストラリア派遣組の仲間といったような連帯感が生まれました。9 日間の研修を終えて、行く時と帰ってきた時で気持ちが変わっていることに気づきました。なぜか心が落ち着いている、そんな気がしてなりません。

この研修を通して今までにはない、何かを掴んだような気がします。「もっと生の英語に触れてみたい」・・・これが今の僕の率直な気持ちです。今後、この経験を活かし、自分の将来の目標に繋げることが出来たらと思います。

オーストラリアのすばらしさ

No. 1 2 南外中学校 今野 拓

・ 動機

海外派遣と聞いても最初はぴんとこなかった僕ですが、先生から募集の話を詳しく聞いているうちに段々と興味が湧いてきました。さらに、「オーストラリアと日本の生活や環境はどう違うのか。」という関心もあったので、この目で確かめに行きたいと思うようになりました。親に相談したら、行くことに賛成してくれたので、オーストラリアでは色々な事を学んでこようと強く思いました。そして、新しい友達と良い思い出をたくさん作りたいと思いました。

I 自主研究テーマと設定理由

僕は、「親と子が良い関係でいるためにはどうするべきか？」という研究テーマを設定しました。理由は、自分が最近、親と団らんする時間が少なくなっているからです。はたしてオーストラリアの子供達は親とどのような時間を過ごしているのだろうと思い、このテーマにしました。

II 調べた内容と結果

(1) Q. 日本と比べ、子供の手伝いは多いか？

A. ホームステイの時、ロバートさんのお宅に泊まりました。ロバートさんは自宅隣にある農場で働いており、そこへ農業体験をさせてもらいに行くと、僕たちと同じぐらいの女の子が働いていました。他の所でも、子供が親の手伝いをしている場面を多く見かけました。日本とうまく比べることはできませんでしたが、オーストラリアの子供達は、よく親の手伝いをしている事が明らかとなりました。

(2) Q. 親と団らんする時間は多いか？

A. この質問をしてみたら、けっこう多い事がわかりました。ホストファミリーのお宅にも子供がいましたが、親と接する時間がとても多かったと思います。

上記(1)と(2)のとおり、オーストラリアの子供達は、とても親孝行だということがわかりました。僕もオーストラリアの子供達を見習い、手伝いや団らんの時間をもっと増やしていき、少しでも親との関係を良くしていきたいと思いました。

Ⅲ オーストラリアの第一印象

飛行機から降り、空港を出てすぐに感じたのは、気温の差です。今オーストラリアは夏で、夜でもとても暑く感じました。その上、日があたっている時の紫外線量は、同じ1分間に浴びる量が日本の7倍と聞きました。やはりそのせいか、短時間日に当たっただけなのに、肩に火傷したような痛みが出てきました。

空港を出た時は暗かったのでわかりませんでした。朝になると、とても自然が豊かで広いということがわかりました。オーストラリアは日本よりも面積は大きいのですが、人口は日本よりもはるかに少ないので、すばらしい自然が残っているのです。雄大な風景はとても綺麗でした。



Ⅳ マンガリーフオーラルズ

マンガリーフオーラルズは、世界最古の熱帯雨林に囲まれ、世界自然遺産にも登録されている場所です。僕達は最初ここの宿舎に泊まりました。そこには、ワラビーやカモノハシなどの、日本では見られない動物がたくさんいます。特にカモノハシは、オーストラリアの人々も約80%が見たことのない動物だそうです。

虫では、青と黒の模様がある蝶々があります。その蝶々は1回見ると幸せになり、2回見ると幸せが元どおりになり、3回見ると、とても幸せになるそうです。そして、頭にその蝶々が乗ると大金持ちになるそうです。僕は頭には乗りませんでしたが、3回見ることができました。他にも土ボタルという虫があります。名前にはホタルと付いていますが、実際はホタルではなく、ミズの様子に細長い生物です。土ボタルは夜に光を出し、その光に集まった小さい虫を食べるようです。懐中電灯などの強い光を当てると、土ボタルは活動をやめ光を出さなくなりそのまま死んでしまうそうです。

植物にもたくさんの種類があります。バナナの木やおじぎ草などのおもしろい植物や、においを嗅ぐと危険な植物もあります。

このように、マンガリーフオーラルズは楽しい所で、色々と学ぶことができました。地元の小学生ともアーチェリーやウォータースライダーなどで遊び、自然とたくさん触れ合うことができました。日本でももっと自然と触れ合い、自然を大切にしていきたいものだと改めて思いました。

V グリーン島

グリーン島は、様々な魚やサンゴ礁が見られる場所です。海で泳ぐこともできる素敵な場所でした。他にも、体長1.5Mもあるシャコ貝、人間の腕より太く長いナマコもいました。海の中には、計り知れないほどおもしろい生き物がたくさんいました。砂浜では、友達と一緒に泳いだり砂遊びをしたり、存分に楽しむことができました。

グリーン島は、海が沖縄のように綺麗で、いつまでもいたい気分になりました。日本からも多くの人々が来ていました。

VI キュランダ溪谷

キュランダ溪谷では、あの「世界の車窓から」のオープニングに使われている列車に乗りました。そこから見る外の景色はとても美しいものでした。途中、列車が止まり、大きな滝を見ることができました。目的地に着き、次はバスに乗ってレインフォレストーションに行きました。そこでは、水陸両用車に乗って植物と動物を観察しました。マンガリーフォールズとはまた違う景色や動植物が見られて、とても楽しかったです。



その後、アボリジニのパマギリ族のやり投げ、ブーメラン投げ、不思議な音色を持つディジュリドゥという楽器の演奏を見たり聴いたりしました。ブーメラン投げは僕たちも体験することができました。

また、アボリジニのパマギリ族によるダンスショーもありました。ディジュリドゥの演奏に乗ってダンスをするものです。パマギリ族の人達が楽しそうに踊っていたので、こちらでも楽しい気分になりました。僕はもう一人の友達と一緒に、観客を代表してステージで彼らと踊りました。

ダンスショーが終わった後、コアラを抱っこして写真を撮ることができ、とても思い出に残りました。やはり、動物と触れ合えたことはとても良い経験となりました。

VII ホームステイ

僕は友達と4人でロバートさんの家に泊まることになりました。ロバートさんはとても優しく親切な人で、奥さんも優しく、娘のリアーもとても元気で本当に良い人達でした。

バーベキューや、クリケットという野球に似たスポーツ、硬式テニスなど、たくさん楽

しました。僕達4人は主にリアーの面倒を見ていました。リアーは初めて会った時は恥ずかしがっていましたが、遊んでいるうちにだんだんうち解けてくれました。折り紙やだるま落とし、紙飛行機、福笑いなど、日本の遊びを教えたり、外で遊んだりして、僕達も一緒に楽しむことができました。

他に手伝った事は、バッファローの乳絞りです。暴れないようにバッファローの足を縛るのが大変でした。

赤ちゃんバッファローにミルクを飲ませる時も、押す力が強くとても辛い仕事でした。しかし、少しでも役に立つ事が出来て、本当に良かったと思います。

楽しい日々もあっという間に過ぎてしまい、最後の別れの時、ロバートさん達と過ごせた時間を思い出すと涙が出そうになりました。このホームステイが僕にとって一番の思い出でした。



VIII 海外研修を終えて

海外研修を終えた今、本当に良い経験ができたと心から思っています。

僕以外の派遣生も、それぞれ多くのこと・大切なことを学んだと思います。僕は、「人との関わり」が一番に学んできました。言葉が通じない時もありましたが、たくさんの楽しい時間を一緒に過ごすことができました。普段僕は、自分の家ではあまり手伝いをしていないのですが、オーストラリアではホームステイ先の家族の役に立ちたくて、自ら仕事を探すこともありました。違う国に住んでいても、僕にとっては大切な人達です。これからも様々な人との関わりを大切に、学んできたことを一つでも多く日本で活用できるよう頑張りたいと改めて思いました。オーストラリアでお世話になった人達、研修に行かせてくれた家族には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

オーストラリア研修

No. 13 南外中学校 佐藤千尋

レポート 目次

- 1 はじめに
- 2 自主研究課題について
大仙市の自然を未来によりよく残すためにはどうするべきか
- 3 オーストラリアでの思い出
(1) 夜、無音、ファームステイにて、プライドを懸けた戦い
(2) さんご礁での出会い
- 4 研修を終えて
「I LOVE 日本!!」

1 はじめに

僕がこのオーストラリア海外派遣に参加しようと思った動機は2つあります。

1つ目は、今の自分にはあと一步を踏み出そうとする力が足りていないと思うからです。僕はいつも何をするにしても、人の顔色を伺ってから行動する癖があり、一番に行動したいと思ながらも、行動できずにいました。そんな自分を変えるために参加しようと思いました。

2つ目は、日本とは様々な点で違いのあるオーストラリアに行き、その文化をじかに学ぶことで、オーストラリアへの理解を深め、日本のよさを再確認したかったからです。



日本には日本の、オーストラリアにはオーストラリアの長所短所があると思います。そんな中で、故郷である、四季の美しい日本の良さを再確認してきたいと思いました。

しかし、旅行費用は僕個人だけでは出せません。悩んだ結果、両親に「どうしても行きたい、行かせて欲しい」と相談することにしました。すると両親は、「行きたいなら行って来い」と背中を押してくれました。

こうして僕は、2つの動機を持ってオーストラリアに行きました。目的はしっかりと達成できたと思います。



大仙市の自然を よりよく未来に残すためには どうするべきか？

2 自主研究課題について

「大仙市の自然をよりよく未来に残すためにはどうするべきか？」

(1) 設定の理由

この課題を設定した理由は、今ある大仙市の美しい自然が、自分が大人になるころにも今のままで見られるのだろうか?と、疑問を持ったからです。道を歩いていけばちらほらゴミが落ちていたりします。こんな状態では、すこしずつ環境は壊れていってしまうと思います。自然が豊かなオーストラリアでは、環境についてどんな工夫をしているのか。それを調べてこようと思いました。

(2) オーストラリアの環境への配慮

自分の目で見たオーストラリアの自然は、とても大きいと感じました。僕たちが行ってきたのは世界最古といわれている熱帯雨林です。そこには広大な大地に信じられないほどの自然が広がっていました。街の中でも多くの植物が育てられていました。豊かな自然があるということは、それだけ環境がいいということです。

オーストラリアの人々は環境を守るためにどんな配慮をしているのか、僕は2つのことに気づきました。

1つが車です。オーストラリアでは、ディーゼル自動車の普及が進んでいるそうです。ディーゼル自動車は、普通のガソリン車よりも環境に優しい自動車です。

オーストラリアはとても広いので、移動には自動車を使用することが多いのですが、少しでも環境への負荷を減らすために、ディーゼル自動車を使用する人が多いそうです。

もう1つが、ゴミです。オーストラリアの道路には全くといっていいほどゴミがありませんでした。これは一人一人の意識が高いだけでなく、ゴミ箱がとても多いということが関係していると思います。街の中には、ひとつゴミ箱があれば100mもしないうちにまたゴミ箱があります。観光スポットでも同じで、ゴミ箱が沢山あるから、面倒くさくなってポイ捨てることもないですし、もしゴミが落ちていたら、すぐそばにゴミ箱があるから捨てようかと思えるのではないのでしょうか。

オーストラリアでは、一人一人の環境への意識が非常に高いようです。美しい自然を残そうとする気持ちはもちろん、美しい自然を持つ国に住む人々の責任からくるところもあるそうです。



↑世界最古の熱帯雨林の風景

(3) 大仙市との違い

(2) から、オーストラリアでは環境への意識が高いということがわかりました。では、日本や大仙市ではどうでしょうか。

車については、現在日本政府が「エコカー減税」を行っています。エコカー減税は、政府が定めた環境負荷の少ない車を買うと、環境負荷の程度に応じて所得税・重量税を最大100%減税してくれる制度です。この制度の効果とエコカーブームもあり、エコカーの普及率は伸びているそうです。

しかし、車の普及率全体から見ればまだまだ少なく(約1%)、スタートラインに立ったばかりです。エコカーにしようかどうかと悩んでいる人は、環境のことを考えてエコカーに乗ってもらいたいと思います。僕は将来環境のことも考え、エコカーに乗りたいと思います。

ゴミ、特にポイ捨てについては、私達も考えるべきだと思います。なぜなら、街を歩いているとあちらこちらにゴミを見かけるからです。僕も、地域のゴミ拾いに参加しています。活動した後はとてもきれいになりますが、一週間もすればまたちらほらとゴミを見かけるようになります。

なぜ、ポイ捨てはなくなるのか? それは、ポイ捨てをしても何も感じないような人がいるからです。ゴミを拾い続けても、捨てる人がいなくならなければ、ゴミは減りません。

そこで、僕が訴えたいのは「意識改革」「野外ゴミ箱の設置」の2つです。



「意識改革」。それは捨てる側の意識改革です。ポイ捨てをすることで、環境にどのような影響を与えるのか、ポイ捨てをする人はあまり考えていないと思います。どうすればそれを減らせるのか。僕は、もっと一人一人が、環境のためにどんな些細なことでも実行することで減ると思います。みんなが行動を起こせば、一人一人の行動は小さくとも、集まって大きな行動となります。大きな行動となれば、今まであまり環境のことを考えなかった

人も考えなければいけないと思ってくれると思います。しかし、考えてくれても実際に行動を起こしづらい状況だとあまり意味がありません。そこで、僕は「野外ゴミ箱の設置」をするといいと思います。そもそも、ポイ捨てはゴミを捨てる場所がないからするものだと思います。だとすれば、ゴミを捨てる場所がすぐ近くにあればポイ捨ては減らせるはずですが、また、落ちていたゴミを見つけた場合にも、ゴミ箱が近くにあれば拾って捨てることができます。現状では、室内にゴミ箱はありますが外にゴミ箱はほとんどありません。これでは外でゴミを捨てたい時や、ゴミを見かけた時に捨てることができず、結局ゴミを見過ごしたりしてしまいます。このようなことを無くすためにも、野外ゴミ箱を設置してもらいたいと思います。

(4) 塵も積もれば山となる

日本でも一人一人が環境のことを考えていると思います。しかし、考えているだけで行動を起こすことができず、見て見ぬふりをする人や、環境のことを考えて行動しているにもかかわらず、違うところでポイ捨てをするなど、行動が矛盾している人が多いと思います。そんな人にもう一步を踏み出してもらうためにも、もっと市をあげて行動すべきです。そうすることで、今よりもっと多くの人が行動を起こすようになり、未来により良い大仙市の自然が残るだろうと思います。

誰かが大きな行動を起こしてくれるのを待つのではなく、それぞれ自分自身が、どんな些細なことでもいいから継続してやるのが大切だと思うようになれば、環境の問題はなくなると信じています。

3 オーストラリアの思い出

(1) 夜、無音、ファームステイにて、プライドを懸けた戦い



ファームステイで、僕たちがお世話になったのは Voss さんの家でした。そこでは、牛・アヒル・豚・鶏・カカオ・パパイヤなど、沢山の動物・植物を飼育栽培していました。また、家にはプールがありとても驚きました。僕たちはこのプールで毎日泳がせてもらいました。汗をかいたあとのプールは最高に気持ちよかったです。



ここで僕達は、1 日目に牛の解体作業を見ました。首を銃で撃たれた牛の解体はとてもグロテスクで衝撃的でした。僕には初めての経験だったので、食い入るように見ていました。この牛は、翌日の夕食でステーキとなって登場し、僕達のお腹の中へ旅立っていきました。

1 日目と 3 日目の夜は、ホストファミリーと一緒に「Match」というボードゲームをしました。このゲームは、簡単に言うと敵を蹴落としていける双六のようなゲームです。とても楽しいのですが、自分の駒が蹴落とされるとイライラする時もあります。だから、みんな真剣に、自分のプライドを懸けてサイコロを振っていました。サイコロの目に一喜一憂しながら、みんなで楽しみました。ちなみに僕の結果は、6 人中 1 日目 4 位、3 日目 3 位で、高くもなく低くもない順位でした。



(2) さんご礁での出会い

世界遺産グレートバリアリーフ。日本の本州に匹敵する全長約 2 0 0 0 k m のさんご礁です。このさんご礁のほんの一部をさんごの島グリーン島で見してきました。

グリーン島にはフェリーで 4 5 分程の道のりでしたが、船に乗るのが初めてだったので、凄まじく船酔いをしてしまい、ずっと風を浴びていました。時々、海水が飛んでくることもありましたが、それも含めいい船旅となりました。



グリーン島について驚いたのが、「海の綺麗さ」と「ナマコ」です。海は 4、5 m 先も見通せるくらい綺麗で、海底のさんごがはっきりと見えました。ガラスの船底から下を見られるグラスボートに乗って少し沖に出ると、2 m もあろうかという超巨大ナマコと出会いました。日本では絶対にありえない大きさです。自然が豊かなここだからこそすくすくと巨大に成長しているのだと思います。



昼食の後、海で泳いでいると、魚もたくさん寄ってきました。南国の魚との出会い。魚と一緒に泳ぐのは初めてでした！ 日本ではできないことです。僕は興奮して追いかけてましたが、すぐに逃げられてしまいました。

みんなで楽しくはしゃいだ、いい時間でした。

I LOVE

日本!!

4 研修を終えて

「I LOVE 日本!!」

出発当日、僕の心は不安だらけでした。一緒に行く人達とうまくやれるのだろうか、オーストラリアで大変なことが起きたりしないだろうか、ファームステイではホストファミリーと話すことができるのだろうか、そんなことばかり考えていました。しかしそれは杞憂に終わりました。一緒に行った人達とは毎日仲良くできたし、ホストファミリーとも会話することができました。

この研修で僕が強く感じたことがあります。それは、「僕は日本が大好きだ」ということです。気候、文化、習慣、何から何まで日本と違うオーストラリア。いわば違う世界に行ってきた初めてわかる日本の良さ、そして短所。オーストラリアに行ったことで、僕は日本のことについて深く考えることができました。

日本は春夏秋冬の区別がはっきりしていることや、美味しいご飯があることなど、いいところが沢山あります。また一方で、国内の政治や環境の問題など、短所も沢山あります。でも、そんな短所を吹き飛ばすくらい大事なことがあると思います。それは、日本は僕たちが生まれた国だということです。僕にとって日本はこれ以上ない最高の故郷です。きっとみんなにとってもそうだと思います。しかし今、日本は、不況などの大きな危機の中にいます。この危機から抜け出すためには、みんなが自分でできることをすることが必要だと思います。そう考え行動すれば、すぐに結果は出なくともきっと良くなって行くと信じたいです。日本はとてもいい国なので、時間がたてば、今ある問題も解決して行って、きっと今よりもっともっといい国になると信じています。

自分は日本が大好きだと感じたのと同時に、日本は世界的に見ても大切な国だと思いました。オーストラリアでは、TOYOTA やホンダなどの日本製の自動車が沢山走っていました。車だけでなく、テレビは SONY、ポットも日本製と、日本製の物が沢山使われていました。日本の製品は世界に多く輸出され、世界に影響を与えています。そういう意味でも、日本は大切な国で、僕ら若い世代がもっと発展させていかなくてはならないと思いました。

オーストラリア研修は、知らないことを知り、聞いて知っていたことも見て体感して改めて知る、充実したかけがえのない思い出となりました。きっといつまでも僕の心に残るものと思います。オーストラリアに行くに当たって、支えてくださった方々、本当にありがとうございました。

最後に、一言。

オーストラリアも好きですが、日本が一番好きです!

広がる世界

No.14 南外中学校 鈴木 豪

初めての海外 初めてのオーストラリア

ついにやって来たオーストラリアへの海外派遣。海外に行くという実感がわいたのは、仙台空港を出発したときだった。また、それと同時に不安もこみ上げてきた。グアム空港を経由しオーストラリアに着いた時、僕達のオーストラリアでの研修が始まった。

オーストラリアに行ってまず初めに感じたことは、土地が広いということだった。最初に泊まった「マンガリーフォールズ」にはとても広い草原や森があり、自然に囲まれて気持ち良く生活することができた。また、それ以上にファームステイ先の農場の広さに驚かされた。四方八方が草原に囲まれ、それは遠くまで広がり、たくさんの牛たちが楽しそうに暮らしていた。

初めての海外、初めてのオーストラリアは日本とはまったく別世界だった。



「マンガリーフォールズ」

みんなとのオーストラリア研修

みんなと一緒に行動した研修はとても楽しかった。はじめはマンガリーフォールズ内での自然散策で、豊かな自然が気持ちよかった。そして翌日、ついに待ちに待ったファームステイの日がやってきた。ファームステイ先では、観光に連れて行ってもらったり、子守りをしたりした。

そんな中、一番大変だったがやりがいがあったのは、バッファローの世話だ。バッファローはとても大きく、はじめて見たときはびっくりした。バッファローのミルクを絞ったり、そのミルクを小さいバッファローに飲ませたりする仕事をした。ミルク絞りではバッファローの足を固定するという作業をしたが、暴れるバッファローもいて大変だった。小さいバッファローも力はとても強く、ミルクをやるにも一苦労だった。この他に牛舎の掃除をしたり、えさをやったりもした。



ミルク絞りの様子

マンガリーフォールズではめったに見られない「カモノハシ」を見ることができてとても嬉しかった。ファームステイやマンガリーフォールズでの活動の後には、グレートバリアリーフやキュランダの観光をした。

グレートバリアリーフやキュランダは自然に満ち溢れていて、そこにいるだけでいい気分になることができた。日本では絶対にできない体験をたくさんすることができていい研修になったと思う。

テーマ・・・効率的に学習するにはどうすべきか？

設定理由・・・最近よく、家庭での勉強時間が全体的に減っているという話を学校で聞く。僕自身、テスト期間ではないときは家庭学習の時間が少なくなってしまう、勉強がおろそかになってしまうことがよくある。そこで、オーストラリアでは家庭学習の量はどのくらいなのか、どのように勉強しているのかを知りたいと思いこのテーマにした。

1 家庭学習の量

僕がオーストラリアで触れ合った子供達は、全員小さい子ばかりだった。また休み中ということもあり、勉強をしている子供達は少なかった。しかし、触れ合ったことで勉強を効率よく行うためのヒントを得ることが出来た。

それは、ちょっとした休憩や自分のリラックスできる時間を作るということだ。ただひたすらに勉強しては飽きてきてしまい、全然頭に入らなくなってしまう。それよりだったらまず勉強をして、少し飽きたら自分でリラックスできるようなことをする。そしてまた勉強にとりかかる。これを繰り返していけば短時間で集中して取り組み、勉強の効率もよくなると思う。

ただし、これにはリラックスする時間を長くとりすぎてしまうという問題点があり、それをなくすためにはしっかりと心が必要である。しっかりと気持ちの切り替えをして、勉強するときはする、休むときは休むというメリハリのついた行動が必要だと思う。

このような勉強スタイルを継続していくと、テストの点数も良くなると思うし、勉強からのストレスも感じなくなると思う。そして、テストの点数が良くなるとますます勉強を頑張ろうという気持ちになり、ますます勉強がはかどっていくと思う。はじめの問題点だけを気をつけることで、その後がすべて良くなっていくというのは、とても簡単にできていい事だと思うし、実践していかなければいけないと思う。

また、これは勉強だけについて言えることではない。何かスポーツをやっているのであれば、ただひたすら練習をするだけでは上達しないと思う。アップも準備体操もやらないで練習に入ると怪我の危険が高くなり、ましてや大怪我になったら何の意味もない。しかし、アップや準備体操をしたからといって怪我をしない訳ではないと思う。ずっと何時間も練習をしていると体も悲鳴をあげてしまい、いずれは怪我をしてしまうかもしれない。そのため、やはり疲れてきたら体をしっかりと休めるという心がけが必要だと思う。このように行動にメリハリをつけるということは、勉強だけではなく生活していくうえで必要なことだと思う。

オーストラリアの子供達とは、身振り手振りを交えながら思いを伝えあったり、たくさんのダンスをしたりしてリラックスすることが出来たと思う。みんな元気いっぱい、彼らからはとてもパワーをもらった。そこからは、勉強やスポーツ、何をやるにも、元気であるということは絶対に必要不可欠であり、集中してやれるために大事なことだと改めて実感させられた。

2 学習方法

学習方法についてはファームステイ先の3歳の女の子からヒントをもらった。

まず最近の僕の学習についての状況を書いてみたいと思う。僕は、習ったことをまとめ、それから練習問題に入る。しかし、ただそれだけをやっていたら、覚えたはずのことをテストの時になかなか思い出せないということが多くあった。

さて、まだ勉強もしていなさそうな年の女の子に何を教えてもらったのかというと、「楽しく勉強する」ということだ。僕は、まじめに集中してやることだけが学力の向上につながるとばかり思っていたが、それは間違っていた。今回、何事も楽しくやるのが一番だということに気が付いたのだった。

どうやって「楽しく勉強する」ということを教わったのかというと、その女の子と遊んでいる時、彼女が一つのパズルを持ってきたのだった。それは2つつなげると1つの計算式になるというパズルだった。僕達にとっては簡単なパズルでも彼女にとっては難しかったらしく、真剣に取り組んでいた。また、そのパズルには魚の絵が描かれており、その絵を見て笑いながら楽しんでいた。意味を理解していたのかどうかは分からないが、真剣にかつ楽しみながらやっていた姿から、「楽しく勉強する」ことが大切ということを知った。

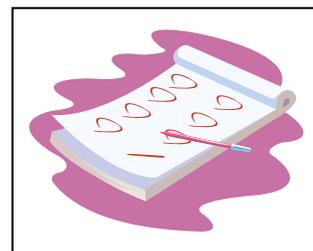
最近、テストの結果が悪くなっているという人は、「楽しく勉強する」ことを意識して勉強するといいと思う。しかし、一人でそんなことをするのは難しいだろう。そんなときは友達と問題を出し合ったり、ゲーム感覚でみんなとポイントを数えて対戦してみたりしてはどうだろうか。いろいろなことを工夫してやることができ、楽しく勉強ができるはずだ。しかし、家に帰ってからは友達と一緒にやるというのは少し無理があるので、一人のときの例を2つ挙げてみたいと思う。

まず、1つめは「リズムで覚える」ということ。何を勉強するにしてもリズムをつけて覚えるという方法だ。英語の単語や理科や数学の語句などにリズムをつけると覚えやすい。そしてテストでもすぐに思い出せる。リズムは自分で考えてもいいし、何かの歌のリズムを使ってもいいと思う。そして声に出してやることで、ますます効率が良くなっていく。

次は社会の歴史で役立つ「ごろあわせ」という方法だ。既にやっているという人も多いと思うが、これは年号を覚えたときに、その年に起こった出来事に関連付けたことを、年号に合わせて覚えるというやり方である。例を挙げると、710年平城京を都にしたということを語呂合わせにしてみると、「なんと(710) きれいな平城京」と覚えることができる。このほかにもたくさんの語呂合わせがあるのでやってみてほしい。

このように、「楽しく勉強する」というのにはたくさん方法がある。例に挙げたものをやってみるのもいいが、自分で何か楽しめるものを考えてやるともっと覚えやすくなるはずである。自分で考えてやるということはとても大変だとは思いますが、それ以上に、テストやプリントで学習の成果が発揮できた時の喜びのほうが大きいと思う。

3歳の女の子から、これからの将来を左右する勉強について教えてもらったということはとてもラッキーだと思う。教わったことは実践してみるのが一番なので、早速やってみたいと考えている。



充実した研修活動

今回の研修では、「マンガリーフォールズ」での活動・ファームステイ・世界遺産との触れあいなど、とても充実した活動を行うことができたと思う。なかでもファームステイでは、今までの自分にはないものを得ることができた。まず、最初はファームステイ先への移動の車中。僕達は初対面にもかかわらず、ロバートさんと和気あいあいと、決して上手ではない英語を一生懸命使いながら会話することができた。これは、ロバートさんが優しく話しかけてくれたこと、堅苦しくないおもしろい話題を話してくれたお陰だと思った。初対面だったら礼儀は必要だし、慣れ慣れしなかったら相手に悪い印象を与えてしまうかもしれない。これがぼくの心配していたことだった。しかし、ロバートさんに出会ってからはそんな感情は消え、「礼儀は必要だけど、あまり堅くなりすぎて出会っただけで終わってしまっただけではなんの意味もない。」と思うようになった。また、ロバートさんに「ミラミラ フォールズ」に連れて行ってもらったとき、「Hello」や「Are you Japanese?」などと優しく声をかけてくれた人がたくさんいたことも印象に残っている。やはり初対面の人に優しく声をかけることができる人はすばらしいと思った。

また、あるお土産屋さんに行ったときのこと。少しではあるが値段をさげてくれた店員さんがいた。こういうところにも人の優しさがみられると思う。人に優しくすることを実行できるというのはとてもいいことだし、してもらった人は喜び、した人もいい気持ちになれると思う。

オーストラリアでの研修活動では特に、「優しさ」について改めて深く考えることができたと思う。自分の肌で感じたこの優しさを、今度はみんなに感じてもらえるように、日々相手のことを考えて生活していきたいと思った。

広がった世界

今回の海外派遣で、僕は、ひとまわり成長することができたと思った。初めての海外ということもあり、いろいろなことをたくさん経験することができた。まずは、飛行機で海外への移動。パスポートや出国するための検査など、いろいろなことをした。そしてオーストラリアでの自然と触れ合う体験では、オーストラリアの雄大な自然を存分に楽しむことができた。また、オーストラリアの人達との交流では、慣れない英語を使いオーストラリアの英語に触れることができた。

この海外派遣は自分にとってとてもいい思い出になったし、視野や世界が広がりものの見方が変わったような気がする。オーストラリアの人達の「優しさ」に触れることができたおかげで、何でも悪いことばかりを見ずに良いところを見られるようになってきた。これからは外国の「良さ」をたくさん見つけていきたいと思った。

海外派遣に参加して本当に良かったと思う。これからの学校生活、社会に出て行くときにこの経験を生かしてがんばっていききたいと思った。



オーストラリアの雄大な自然

山あり 谷あり 初の海外旅行

No. 1 5 南外中学校 鈴木雄大

目次	I はじめに
	II 僕の Australia 研修
	III テーマ設定の理由
	IV 調べた内容
	ゴミ問題に関して
	(1)リサイクル普及率
	(2)ゴミを減らす為の取り組み
	(3)ゴミ問題に対する意識
	V 海外研修を終えて



I はじめに

オーストラリアでの出来事についての説明の前に、まず僕がどのような経緯で、このオーストラリア海外派遣事業に参加したのかについて述べたいと思います。

僕が初めてこの事業の存在を知ったのは、昨年、中学校1年生の時でした。南外中学校から参加した先輩はいませんでした。誰かがオーストラリアに行ったというのを偶然耳にしたことで、初めて僕はオーストラリア派遣事業の存在を知りました。しかしその時は、まだオーストラリアという国がどのようなところなのか全く知らず、自分が中学生のうちに海外に行くはずなんてないと思い、全く興味を持ちませんでした。

それから約一年余り、僕は中学2年生になり、もうオーストラリア派遣事業のことなどすっかり忘れてしまっていました。そんな時、学校で先生から募集の話が聞かされました。この時は一年前と違って、「今のうちから海外にいけたらすごくいい経験になるし、英語もある程度上達するなあ」と思い、家の人に相談してみました。しかし、いくら市で費用を半分負担してくれるといってもやはり高額です。親に頼んでも「行かせてやりたいけど・・・」と言われ、その時はいったんあきらめたのでした。

しかし、翌日学校に行ってみると、なんと3人がオーストラリアに行く決めていたのです。これを知った瞬間僕は、「ほかの3人のようにオーストラリアに行きたい」という激しい衝動に駆られました。ところがその日は、参加者申し込み受付の最終日だったのです。そのためもう一度親と相談することもできず、一日中どうしようかとかなり悩みました。そして、放課後。「そういうことは電話では決められない」という親に電話で強引に頼み込んで、海外派遣事業に参加することを決意したのでした。

しかし、それから2週間程は、こんなふうにして申し込んでしまって本当に良かったのか毎日かなり悩み、しまいには、もう行くのをあきらめてしまおうかとまで思いました。ところが、ある日のこと、家族が快くオーストラリアに行くことを許可してくれていたことを知りました。このとき初めて「あの

時行くということにして良かったなあ」と思いました。この日以降、やっと僕は心の底から安心して、純粋にオーストラリアに行きたいと思えるようになりました。しかしながら、まだオーストラリアに行けるということが確定したわけではなかったので、それからは毎日「何とかオーストラリアに行けますように」と祈り続けました。

そして、数日後、僕もオーストラリアに行けるのが確定したということを知ったのでした。何週間も悩み、苦しんだり不安な気持ちで過ごしていたのがついに報われた瞬間でした。

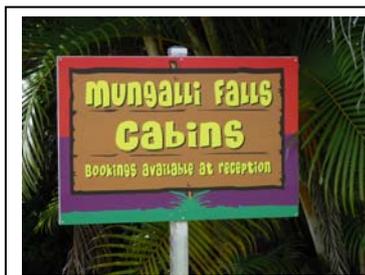
II 僕の Australia 研修

1月3日 待ちに待ったオーストラリアへの出発日、たくさんの期待と不安を胸に抱えながら、秋田から仙台、そしてグアムと、だんだんオーストラリアへと近づいていきました。そして翌日の午前1時、ついにケアンズ空港に到着しました。知っていたこととはいえ、季節が反対だというのには、やはりとても驚きました。その後、2時間かけてマンガリーフォールズに着き、ついにオーストラリアでの活動が始まりました。マンガリーフォールズでまず驚いたのは、見たことのないたくさんの植物、そして森のスケールの大きさでした。スタッフの人が、「この森は約1億5000万年前からある世界最古の森で、恐竜時代に生えていたようなシダ科の植物などが生えている。」と言っていたので、すごく驚きました。この日は、他にも森を散策したり川で泳いだりしたのですが、僕はこの川泳ぎで大変な思いをしました。

翌日、いよいよファームステイが始まりました。僕は他の4人の研修生と共にVoss Maritaさん、Hansさん夫妻の家にお世話になりました。Vossさんの家には、深さが約2m40cmもあるプールがあり、家の周りでは、豚、アヒル、鶏や、バナナ、パイナップル、カカオ、スターフルーツなどのたくさんの動植物を育てていました。HansさんもMaritaさんもすごく優しい人で、幾つもの滝や湖、お店など、たくさんの面白い場所に連れて行ってくれました。そしてMaritaさんは毎日とても美味しい料理を御馳走してくれました。Vossさんの家にファームステイできて本当に幸せでした。

ファームステイが終わった日には、現地の小中学生と交流をしました。たくさんのことをしたのですが、中でも夜に行ったダンスは、みんな興奮していていい雰囲気だったので、その日の活動で一番面白かったです。

翌日、お世話になったマンガリーフォールズの人達とお別れをしてケアンズ市内へ戻り、そこから船に乗ってグリーン島に行きました。グリーン島ではいろいろなサンゴを見たり、海で泳いだり（浅いところで）、前にやったトランプの罰ゲームで砂に埋められたりと、いろいろなことをしてグリーン島をたっぷり満喫しました。その後はケアンズ市内のホテルに泊まったのですが、かなりの高級ホテルという感じだったのですごく驚きました。しかし、グリーン島での疲れもあり、夜はあまり遊ばずにみんなすぐに寝てしまいました。



そして、ついにオーストラリアでの最終日が来てしまいました。この日はまず、キュランダ観光の列車に乗ってキュランダ村へ行きました。この列車は、滝のそばを通る時に一度止まったのですが、僕はその滝の予想外の大きさに思わず感動してしまいました。聞いた話によると、落差300mほどあるそうです。(右の写真)

キュランダ村では、コアラと一緒に写真をとったり、熱帯雨林の中を水陸両用の兵員輸送車のようなものに乗って回ったり、アボリジニのダンスショーを見たりと、いろいろなことをしました。その後には再びケアンズ市内に戻ってオーストラリアで最後の買い物をしました。

「これでもうオーストラリア研修も終わるのか。」と思うと、なんだかとても切ない気持ちになりました。買い物の後でケアンズ空港に向い、ついにオーストラリアを離れたのでした。オーストラリアでの数え切れない程たくさんの思い出が走馬灯のように頭をよぎり、思わず泣きそうになってしまいました。そ



して1月11日の午後3時30分、ついに大仙市役所に到着し、9日間続いた「僕のオーストラリア研修」も、ついに終わりを迎えたのでした。

Ⅲ テーマ設定の理由

僕は、今回「大仙市の人々のリサイクル意識を高め、ゴミを減らし有効活用するにはどうすべきか」という自主研究テーマを設定したのですが、このテーマを設定したのには大きく3つの理由があります。

まず1つ目は、今回のオーストラリア研修以前から、環境問題やリサイクルなどの分野にとっても関心があったということです。

2つ目は、「大仙市は他の地域と比べてゴミ処理やリサイクルは進んでいるのかなあ。」と疑問に思ったからです。

3つ目は、「オーストラリアから、大仙市のゴミを減らし、よりリサイクルを普及させるための何か手掛かりを見つけないだろうか。」と思ったからです。

以上が、僕のテーマ設定に大きく関わった3つの理由です。



Ⅳ 調べた内容

ゴミ問題に関して

(1) リサイクル普及率

ここでは、大仙市とオーストラリア、両者のゴミについて比較して分かることを自分の感想を交えて説明したいと思います。

まず最初に、大仙市とオーストラリアのリサイクル普及率を比較したいと思います。インターネットなどで調べたところ、大仙市では、びん、缶、ペットボトル、古紙などを資源ごみとして回収していて、リサイクル率は16.6%で、全国806市区中532位でした。ちなみに横手市は、18.9%で415位、仙北市は10.2%で764位、秋田市は34.3%で61位でした。これらと比べると大仙市は、仙北市よりは上を行っているものの、秋田市や横手市には大幅に差をつけられているので少し残念に思いました。それにしても秋田市の34.3%で61位は凄いなと思うので、見習っていきたいと思いました。

次にオーストラリアのリサイクル普及率についてです。オーストラリア人は自然保護にとっても敏感で、野生動物保護や植林活動にも積極的に取り組み、普段の生活の中でできる環境保護活動にも積極的だということが分かりました。そして、新聞紙や古着などのリサイクルから、節水・節電による省エネなどの、地球を守るためのことにも日々努めていることが分かりました。具体的な数字は調べることができませんでしたが、オーストラリアの人も日本人同様、環境問題に力を入れて取りこんでいるんだなあと思いました。

(2) ゴミを減らす為の取り組み

次は、大仙市とオーストラリアの「ゴミを減らすための取り組み」について比較したいと思います。これは上のことにも繋がってくるのですが、大仙市ではゴミを減らすために、Reduce「発生を抑制する」・Reuse「繰り返し使う」・Recycle「再生利用する」という3Rの心がけや、マイバッグ・マイバスケットを持参することの呼びかけをしたり、電気式生ゴミ処理機の購入者に対して補助金を出したりしているということが分かりました。ちなみに調べてみると、大仙市の電気式生ゴミ処理機の購入者に対する補助金の額は、補助金を出している全国の648市区中1位だということがわかりました。これはとても素晴らしいことなので、これからは是非続けていって欲しいと思いました。

次にオーストラリアのことについてですが、オーストラリアの人達は、ゴミを減らす為リサイクルに力を入れているのはもちろん、物を何回も何回も修理して大切に使い、食べ物もなるべく捨てないようにしているそうです。大仙市もオーストラリアもそれぞれの方法でゴミを減らそうと頑張っているんだなあと思いました。



(3) ゴミ問題に関する意識

最後は大仙市とオーストラリアの、ゴミ問題に対する意識を比較したいと思います。

まず、大仙市ではここ2、3年の間にゴミの回収が厳しくなった為（厳しくなったというのは、ゴミ集積所に出したゴミがきちんと分別されていないと回収してもらえなくなったという意味です。）、今まであらゆるゴミを混ぜて出していた人が、ちゃんと分別して出すようになったそうです。これはつまり、ゴミに対する人々の意識が高まったと解釈してもよいのではないのでしょうか。

続いてオーストラリアの人々のゴミに対する意識ですが、これはオーストラリアの道を歩いただけで分かりました。市街地はもちろん、川や湖にさえ全くゴミが落ちていなかったのです。これはつまり、オーストラリアの人は全くポイ捨てをしないという事です。なんて素晴らしいんだと思わず感心してしまいました。様々な場所にきちんとゴミ箱が設置されているということと、一人一人がゴミに関して高い意識をもっているという2つのことが、関係していました。

大仙市でもオーストラリアの人達を見習って、ポイ捨てゼロの町を目指せば、きっと今よりもっと素晴らしい町になると思います。

V 海外研修を終えて

今回の海外研修では、数え切れないほどたくさんのお話を学ぶことができました。

最後に、オーストラリアで学んだたくさんのお話のうち、特に心に残っている3つを紹介したいと思います。

まず1つ目は人の命の大切さについてです。実はマンガリーフオーolzで川泳ぎをしていた時に急に深みにはまり、危ない目に遭いました。それまで僕は、「自分は絶対に事故に遭うことはない」と勝手に思い込んでいました。しかし、今回の出来事を経験して、「事故」や「危険」というのはちょっとした油断で起こりえるのだと実感しました。これからはこの教訓を生かして、今まで以上に命を大切にしていきたいと思いました。

2つ目は、英語をあまりうまく使うことができなくても、「相手に伝えたい」という気持ちさえあれば、言葉の通じない外国の人とも十分なコミュニケーションをとれるということです。オーストラリアに行くまで僕はずっと「もし自分の英語が通じなかったらどうしよう」と不安に思っていました。しかし実際には、あまり上手に英語を使うことができなくても、知っている単語をくっつけたりすれば大抵のことはなんとか相手に伝えることができました。そして、もう1つの不安要素だった英語の聞き取りも、たくさん英語を聞いているうち次第に慣れてきて、聞いたことのないようなことを言われても、話の大まかな内容は理解できるようになりました。これからは、この学んだことを学校の英語の授業のときなどにもどんどん使っていきたいと思います。

そして3つ目は友達の優しさです。僕は今までも、自分がして欲しくないことは人にもしないということや、誰にでも可能な限り優しく接するという事などに気をつけてきました。それで、友達関係のことはある程度知っているつもりでしたが、今回また新たな発見をすることができました。それはアクシデントがあった日の夜、病院から帰るときに車酔いして、体調が悪いまま宿舎のマンガリーフオーolz・スチューデント・ヴィレッジに戻ったときのことでした。みんなどんな反応をするかと少し不安に思いながら中に入ると、誰もがすごく心配してくれて、更にいろいろと僕の手助けをしてくれました。みんなに優しくされて僕は、「人から優しくされるのはこんなにも嬉しいものなんだなあ」ととてもありがたく思いました。だから、僕もこれからは、もっともっと人のことを考えて、「ありがたいなあ」と思ってもらえるようがんばりたいと思います。

このように僕は今回の研修で、命の大切さ・言葉の通じない人とのコミュニケーションのしかた・友達の優しさ、の3つを学ぶことができました。

最後に、今回、かなり強引でしたが、オーストラリアに行くことができ本当に本当に良かったです。

オーストラリアで学んだこと

No.16 中仙中学校 菅沼 楓

I はじめに

私の将来の夢は先生になることです。そのために、今から様々な事を体験して、経験や知識を積んでいきたいと考えています。

今回の派遣生の募集を知ったときは、派遣場所がオーストラリアという日本とは違う文化を持つ国、また、熱帯の地域を訪れるということで、滅多にできない様々な経験をすることができると期待が私の中で膨らみました。さっそく家に帰り、家族に相談すると快く承諾してくれて、まだ、行けると決まっていなくてもとても嬉しかったです。それからというもの、「日本と何が違うのだろう」、「英語圏の生活様式とは？」など、オーストラリアの事を毎日のように考えていたら、時間はあっという間に過ぎていき、出発日を迎えました。

II テーマ設定の理由

私達が住む大仙市には、豊かな自然と昔から受け継がれている伝統的な文化がたくさん存在しています。例えば、私が住んでいる中仙地域であれば、ドンバン節や長野ささら、八乙女山の美しい桜や、普段の生活にかかせない米をつくっている水田などがあげられます。これらは、どれも昔から大切に守られてきたものです。しかし、最近では農業従事者が高齢化してきていたり、自然を守るための会が結成されてはいますが、市民の関心はまだ低いのです。

これから先、この大仙市の大切な文化・自然を守るために私達はどうするべきか、世界遺産などたくさんの自然があるオーストラリアから学びたいと思い、「私達の文化・自然を大切に守っていくにはどうするべきか」というテーマを設定しました。

III 調べた内容

(1) オーストラリアの自然

オーストラリアには現在11もの世界自然遺産があります。私達が今回長く泊まった、マンガリーフフォールズにあるレインフォレストロッジ周辺も、世界で1番歴史のある熱帯雨林で自然遺産に登録されているなど、身近に世界遺産を感じることができました。

◆ ロッジで

ロッジの前には広大な自然が広がっており（右写真参照）、今までにこんなにきれいな風景を見たことがなかったので、すごい…としか言うことができないほどスケールが大きかったです。

このロッジ周辺にはたくさんの動植物が生息しています。例えば、カモノハシ。オーストラリア国民でも滅多に見ることのできない珍しい動物です。ロッジの近くのため池にカモノハシがいるのですが、運悪く私は見るできませんでした。

その他にも、野生のバナナや、においを嗅いだけで呼吸困難になってしまう植物など、日本ではお目にかかれな、たくさんの動植物を見かけました。

そして、これらの自然を守るために、様々な取り組みがなされていました。具体的には、ロッジのトイレには汚物を流さないように注意する貼り紙が貼っていたこと等があげられます。日本語訳でも書かれていて、海外から来た私達にも分かるようにされていました。



↑ ロッジ周辺に生息していた植物

また、土ボタル観察にも行きました。土ボタルというのは自ら光を持続的に放って、他の虫をおびき寄せて、それらを食べるといふ、少し怖いホタルなのですが、カメラのフラッシュや懐中電灯等の光を浴びると、光を放つのをやめ、死んでしまうそうです。ですから、この2つは使ってはいけないうと、その時のガイドさんに、固く注意を受けました。今までそこを訪れた人々がその決まりを守ってくれたおかげで、私達はとてもきれいな、土ボタルの群れが放つ光を見ることができました。



◆グリーン島

グリーン島を含む世界最大のサンゴ礁、グレートバリアリーフは全長 2,014 kmにも及び、日本の本州に匹敵するほどのスケールを持ちます。

私達は海底のサンゴ礁を見ることができる専用の船に乗りましたが、サンゴはとてもキレイでした。そして、グレートバリアリーフ（グリーン島）ではこれらを美しいまま未来へ引き継ぐために、3つの事が厳しく決められていました。



↑ 四カ国語で書かれた注意する看板

- ①貝殻やサンゴのかけらを持ち帰らない。
- ②サンゴに触れない、立たない。
- ③サンゴから 1 m 離れて泳ぐ（気づかないうちにサンゴを折っている可能性がある。）

これらのことは、実際に何回も説明を受けましたし、浜辺には4カ国語で書かれた看板も立っています。

また、今回私達の案内をしてくれたガイドさんに話を聞くと、オーストラリアはグレートバリアリーフを始めとする世界遺産を守るために、地球温暖化対策に積極的に取り組んでいるそうです。



(2) オーストラリアの文化

オーストラリアの代表的な文化というと、先住民アボリジニの伝統的な文化をあげることが出来ると思います。

海外研修の中で、実際にアボリジニのダンスショーを見たり、狩りの様子を目の前で見る機会がありました。

現在、先住民アボリジニの子孫のほとんどは、言語として英語を使い、子供達は普通の学校に通っているそうです。

けれども、伝統的なアボリジニの文化を守るために、学校で特別にアボリジニ語の勉強をしたり、今回ダンス等を披露して下さった人々のように、文化を広める活動を積極的に行っているということでした。



アボリジニのダンスショーと狩りの様子

(3) まとめ

オーストラリアでは、昔から大切にされてきた文化・自然をこれから先守っていくために、決まりを作ったり、積極的に保護するための様々な工夫をしていました。文化・自然が大切にされ、今も残っているのは、たくさんの人々の努力の結果だと思いました。大仙市でも、このような活動が行われていると聞いてはいますが、まだ私を含め市民の「自分達の自然・文化を守る」という意識は低いのではないかと思います。大仙市には、昔から大切にされてきた宝物がたくさん現存しています。私達市民が、この大仙市にある多くの文化・自然をまず十分に理解することが大切だと思います。そして、それらを未来へ残していかなければならないという

意識を一人一人がしっかりと持ち、行動に移すことによって、この大仙市の宝物はこれからも大切に守られていくのではないかと考えました。



IV エピソード

今回は本当にたくさんの体験をすることができました。どれも忘れられない事ばかりです。ここでは特に心に残ったファームステイについて紹介したいと思います。

◆ファームステイ先で

今回は三日間、マンガリーフォールズから車で約30分の“コールマン”さん宅(通称“JACKLIN PARK”)でファームステイを体験しました。コールマンさんは二人住まいで、鳥や犬、牛などたくさんの動物を飼っていました。

一日目、ロッジからファームステイ先への移動途中、ホストマザーのリンダさんは私達を Millaa Millaa Falls という滝へ連れて行ってくれました。この滝は現地のマップに載るなど、有名な滝だそうです。とても迫力があり、美しい滝でした。



↑ Millaa Millaa Falls

そして、その滝をバックに、リンダさんの写真を是非撮影したいと思ったので、思い切って

“May I take your picture?”と尋ねたら、快く OK してくれました。自分の片言の英語が通じたこと、その時はとても感激しました。そして、その事がきっかけで、ファームステイ先へ着くまでに、家族の写真や車内でかかっていた歌についてなど、英語でいろいろな話をすることができました。

家に着き、昼食を食べ、午後からは、コールマンさんの友人宅に行き、動物を見せてもらいました。行きも帰りも、道を車で走っている

と、脇に野生のカンガルーが!!

私はそれまでカンガルーは野生では滅多に見られないと思っていたので、驚きを隠せなかった事を覚えています。

夜は、日本文化をリンダさんとジャックさん(ホストファザー)、お孫さん(その時ちょうど来ていました)に紹介しました。折り紙を折ったり、持ってきた横笛を吹いたらとても喜んでくださり、嬉しかったです。その後、外に出て星空を見ました。それはもう言葉にならないくらい綺麗で、日本の星空とは比べものにならないくらいです。しばらくそこから離れることができませんでした。



野生のカンガルー

二日目は、午前はオーストラリアに生息している動物・植物を見に連れて行ってもらい、午後は夕方から、バーベキューをしました。ファームステイ二日目ということもあり、少しは生の英語に慣れたことで、電子辞書を活用しながらでしたが、積極的に英語で話しかけることができました。

夕方からのバーベキューの前にはプールに入ることができました。オーストラリアのプールはとても深く、足が全然つかず、何度も沈みそうになりました。バーベキューでは、リンダ・ジャックの友人と共に楽しい時間を過ごしました。



美味しいとそうめんを食べて下さいました。

三日目の午前は少し勉強をし、お昼からはリンダの兄弟の家に連れていってもらいました。リンダはなんと13人兄弟で、その日はその兄弟の誕生日だったらしく、みんなでご馳走を食べながら話をし、お祝いをしました。この時驚いたことは、一歳の可愛い赤ちゃんがいたのですが、その子がもう耳にピアスの穴をあけていたことです。これも英語圏ならではの文化なのかな…と思いました。夜は、日本から持ってきていた、そうめんを作りました。私が間違えて持ってきてしまったうどんスープのせいで、本当のそうめんを食べて貰うことは出来ませんでした。が、「美味しい」と言ってもらえて一



ジャックとリンダと！

安心でした。その後、ホストファミリーの名前を漢字にしたものを習字で書いてプレゼントし、この日が最後なんだと考えると、思わず涙が出てきました。

いよいよ、最後の日になりました。思えば初日の朝は、オーストラリアで生の生活に触れることができる！という楽しみな気持ちと、決して上手とは言えない片言の英語で三日間過ごすことができるか…という不安な気持ちとが入り交じった状態で迎えたのですが、一緒に過ごしていくうちに、その不安は消えていました。英語も日を重ねるごとに、たとえ文法が間違っている、積極的に話す事が出来るようになっていました。言葉という壁がありましたが、リンダとジャックは、オーストラリアでの私の家族です。本当に感謝したいと思います。お別れをするときに、ジャックが、「大きくなったら、またこの家においで」と言ってくれました。行けるのなら、是非将来また JACKLIN PARK に行きたいと思っています。

◆キュランダ～ケアンズ

オーストラリアでの最終日には、キュランダ鉄道にのり、キュランダ村まで行き、ケアンズの自然を満喫しました。なんと、このキュランダ鉄道は、鉄道ファンも憧れる列車らしく、テレビにも数多く出るなど、とても有名な鉄道なのです。しかし、私は高所恐怖症なので渓谷を走るこの列車からの眺めは十分に楽しむ事ができませんでした…。



日本製の車

その後は、水陸両用車に乗り、ジャングルクルーズをしたり、コアラを抱っこしたり、これぞオーストラリア！という体験をたくさんすることができ、楽しかったです。

夜は、ケアンズ市内で自由行動をしました。ここで驚いたのが、ケアンズ市内には、日本語で書かれた看板がたくさんあったということ。よく見ると道を走っている車も日本製が多いのです。オーストラリア内での日本を確認することができました。

IV 海外派遣研修を終えて

オーストラリアから帰国し、大分時間が経った今でも、現地で経験した事は、私の中に鮮明に残っています。日本では絶対に体験できない、熱帯ならではの自然や文化に触れることが出来て充実した時間でした。しかし、私が帰国後一番強く感じたことは、「日本は良い国」だということです。例えば、オーストラリアでは水がとても貴重で、シャワーの使い方には注意しなければなりません。日本では決してないという訳ではありませんが、あまり気にしないで入浴することができます。こういう事ができるのは、日本に住んでいるからだということに、私は初めて気がつきました。今、私達はとても快適に暮らしています。今回参加して、改めて日本の良さを感じる事ができました。

また、英語に対する意識も自分の中で変わったと思います。今回泊まったロッジには、日本人スタッフが何人か働いていましたが、英語を普通に理解し、話しているスタッフの皆さんはとても格好良かったです。英語を話せるということは、将来の可能性を広げてくれます。私もこの派遣事業をきっかけに、英語力をさらに伸ばし、積極的に会話をしたいと思いました。

V 最後に

九日間の海外派遣事業で経験したことは、どれもこれも私のこれからのたいせつな財産になることでしょう。そして、今回学び、思ったことを、自分の周りの人や市のために役立てたいと思います。また、無事先生になることが出来たら、外国の文化などの事も、未来の子供達に教えたいと考えています。

そして、今回このような素晴らしい経験を与えて下さった、大仙市・JTBの皆様、そして、家族をはじめとする周りの人に感謝する気持ちを忘れないで、これからの日々を頑張っていきたいと思います。

オーストラリアの福祉について

No.17 中仙中学校 武藏 愛菜

1. はじめに

私の姉は以前この海外研修を利用しオーストラリアに行ったことがあり、今では国際言語について幅広く学んでいます。その姉や家族が「絶対！行った方がいいよ！」とすすめるのです。「オーストラリアってどんなところだろう？」この海外研修の話聞いた時、見たい、知りたい、行ってみたい、という気持ちはありましたが、「英語も話せないし…」とためらっていました。これまで私は、積極的にチャレンジをするということが苦手で、学校でも、自分から友達に話しかけたり、発言したりする方ではありませんでした。「よし！何かが変わるかもしれない！」「変えよう！」海外研修で積極的に働きかける自分になりたいと思って応募してみました。運よく学校でも承諾してくれて本当にうれしかったです。

2. 事前学習で

海外研修に行く前に、事前学習会がありました。私はオーストラリアの詳しいことをあまり知らなかったのととても助かりました。オーストラリアには世界最古の熱帯雨林があること、様々な動物がいることを知り、実際に見てみたいという思いを強くしました。現地の方言のようなあいさつも知りました。どんな人たちがその言葉をつかっているのだろう、と楽しみにになりました。また、英会話の練習をさせてくれてとても助かりました。学習会をするにつれて海外研修への期待がふくらみました。

3. テーマについて

(1) 調べようと思った理由

私は、事前学習会で福祉について関心を持ちました。日本は今、高齢化が進んでいます。バリアフリーなどの対策もしていますが、困っている人に手をさしのべるといったことが自然にできない人が多いのではないのでしょうか。オーストラリアではマイト精神を基本として、人々が助け合って暮らしていることを知りました。マイト精神とは、健常者と障害者、若者と高齢者などの区別がなく、すべての人々が快適に暮らせるのが当たり前という考え方です。そういう考えでみんなが生活していけたら、どんなに笑顔があふれる暮らしになることでしょうか。見知らぬ人同士でも重い荷物を持ってあげたり、車椅子を押してあげたり。そのようなことが自然に行われているのです。オーストラリアから学べるものがたくさんあるのではないかと。帰ってきてから、私からその精神を少しでも広げていけたらいいなと考えました。そこで私は「人々が助け合って快適に暮らすにはどうすべきか？」というテーマを決めて追求することにしました。

(2) わかったこと

① 高齢者と若者の交流

オーストラリアでは、高齢者と若者との交流が日常的にあるそうです。しかし日本では、学校で意識して交流する程度で、日常的には定着していないと思います。このような考え方

がオーストラリアとの違いだと思います。

② オーストラリアと日本の環境の違い

ア 椅子

まず気づいたこと。それはいたるところに椅子があるということです。オーストラリアでは駅はもちろん、スーパーの中でも、お店が並んでいる通りでも、長椅子があちこちらにおかれていました。日本でもデパートのようなところでは見かけるようになりましたが、建物を出ると道などではあまり見かけません。祖父や祖母と一緒に出かけるとよく「座って休みたいな。」と言いますが、そんなとき、このように身近に椅子があったらどんなに楽になることでしょうか。

イ 歩道と車道

日本では、歩道と車道の間に縁石があるところが多いです。そのためそれぞれの場所がはっきりし、より安全に通行できるのだと思います。私も縁石がないところではいつも以上に車に注意します。でも縁石があることで、車椅子の人が通れる場所が限られてしまったり、障害者の人が縁石にぶつかってけがをしてしまう場合もあると思いま



す。一方オーストラリアには縁石があまりありません。とても危険ですが、オーストラリアでは歩行者も運転者も、交通ルールをしっかり守って、日本以上に周りに注意しているから縁石がなくても暮らせるのだと思います。また、車椅子の人も通りやすい道が広がり、障害者の人も歩きやすくなっていると思います。

ウ バリアフリー

日本でもバリアフリーという言葉をよく耳にするようになりましたが、まだまだ段差があって困るということがあります。体が弱くなったり、高齢になったりすると、ちょっとした段差でつまずいたり、けがをしたりします。私の祖母や祖父は、その段差をなくすため、家のリフォームまでしました。それだけちょっとした段差でも生活に大きくかかわってくるのです。しかし、オーストラリアでは違いました。日本ではよく階段を見かけますが、オーストラリアではそういうところはスロープでした。駅でも、お店の前の段差でも、歩道でも、スロープなら、障害者も高齢者もすべての人々が、快適に暮らすことができます。「困ってから直す」のではなく、初めからみんながお互いのことを考えているからこそ、そうした環境が作りあげられているのだなと感じました。



エ 点字ブロック

日本では、交差点や、縁石のないところなどにしか点字ブロックはありません。しかし、

オーストラリアでは、たくさんの通りにありました。また、点字ブロックは2列に並んでいました。「縁石がないから。」という理由もあると思いますが、2列あるということで、障害者にとってわかりやすくなっているのだと思います。このような細かい部分にも気を配っているから、高齢者や身体に障害を持つ方も快適に暮らせるのだと思いました。

4. 心に残っていること

(1) ホームステイ

1番心に残っていることは、ホームステイです。最初は英語が通じるのか不安だったけど、ステイ先の皆さんがとても親切ですぐにうちとけることができました。いろいろなところに連れて行ってきて、大きな湖で泳がせてもらったり、森へ連れて行ってもらってオーストラリアの自然を体感することができたり、買い物にも連れて行ってもらいました。また、私たちが作った日本料理も「おいしい！」と言って食べてくれて、「ホームステイをしてよかったな。」と心から思いました。習字に挑戦してもらったりもしました。「この字は難しいですよ!」、「本当ですか!!」というような話をしました。私たちが気遣って夜遅くまで起きていてくれたり、日本語を使ってお話してくれたり、とても楽しかったです。ステイ先の子供たちは私たちと年が近くて、たくさん一緒に遊びました。特に印象に残っていることは、ブーメラン投げをしたことです。日本ではブーメランを投げられるような場所はありませんが、ホームステイ先の家はとてつとて広かったので、存分に投げることができました。戻ってくるようには投げられませんが、楽しかったです。また、野生の動物が家に来るので、餌をあげました。



日本では見ることもない動物たちばかりで、オーストラリアの動物に触れあうことができ、貴重な体験ができました。夜にはホストファミリーがオーストラリアの星空を見せてくれました。オーストラリアの夜空は星でいっぱいでした。秋田県も星がたくさん見られる県だと思っていたけれど、比べものにならないくらいの星の数でした。また、家族の中に高齢者はいませんが、姉弟のお姉さんはほとんど毎日料理を手伝っていました。日本でもお手伝いをする人はいると思いますが、ほとんど毎日となるとそう多くはないと思います。ましてホストマザーはマンガリー自然の家キッチン CAP なので、子供たちの学校が夏休みでも、仕事で家にいることが少ないと思います。だから、お姉さんが料理を作っているのかな?と思いました。ステイ先の家族の皆さんの、相手を思いやる優しさが『マイト精神』につながっているのだらうと思いました。

(2) 自然

オーストラリアでは様々な自然に触れることができました。特に世界最古の熱帯雨林に行ったときには、たくさんの植物について説明してもらいました。ガイドさんがとても詳しくてわかりやすく、たのしく熱帯雨林探索をしました。私は「白ありの巣」を初めて見ました。このときの白ありの巣は木の上であって、ありの巣にしてはとてつとて大きなものでした。また、日本にはないような植物がたくさんありました。「ちょっとまつの木」という木もめずらしかっ

たです。服などについて先に進めないようにする木です。オーストラリアの熱帯雨林では、小さい木は高い木の陰になって日光を浴びることができないので、高い木、大きな木に蔓をくっつけて日光を浴びるのだそうです。しかも、その蔓は日本とは逆回りになっているそうです。それから初めての水陸両用車体験など、二度とできないような体験をたくさんすることができてよかったです。



5. まとめ

(1) 海外研修に参加して

最初は「オーストラリアってどんなところかな?」「ちゃんとできるかな?」と何度も思いました。でも、マンガリーフォールズには日本人のスタッフがいたので、ほっとしました。また、カモノハシを見たときはとてもうれしかったです。頭としっぽしか見れなかったけれど、地元の人でもあまり見られないカモノハシを見ることができてよかったです。そして、いざホームステイに行ってみると、ゆっくりではあるけれど少しずつ英語が話せるようになってきて、最終日にはみんなで写真を撮ったりもしました。また、現地の子供たちと遊んだことも、グリーン島で遊んだことも、キュランダ溪谷に行つてすばらしい景色を見たり、アボリジニのダンスを見たりしたこともとてもいい思い出です。ピンチになったときもあったけれど、友達と協力して乗り越えることができました。また、オーストラリアに行ったからこそ日本の良さも改めて分かったし、小さな幸せ、当たり前になってきている幸せに気づくことができました。私は「この海外研修に参加して本当によかったな。」と心から思いました。

(2) 変わったこと

私は海外研修に行つてから少しずつ積極的になってきました。研修前は、自分から友達に話しかけたり、発言をしたりすることはあまりありませんでした。しかし研修後は、友達に自分から話しかけることができるようになってきました。これは、ホームステイに行った時、家族の皆さんに勇気を出して話しかけたからだと思います。発言をすることはまだできていないけれど、これから少しでも多く発言していきたいです。また、バリアフリーや高齢者に対する考え方も変わってきました。研修に行く前はあまり関心がありませんでしたが、研修後は、「この階段がスロープだったら高齢者や身体に障害を持つ方にとっても楽だろうな。」などと思うようになりました。

(3) 生かしたいこと

この海外研修ではたくさんことを学びました。その中でも特に、【挑戦してみる!】ということ学びました。この海外研修も『挑戦』してみなければ始まらないことだったし、ホームステイの家族の皆さんと共に過ごすこと、友達と過ごすこと、自分の力だけで親の力を借りないで過ごすことも、すべて自ら『挑戦』して始まったことです。最初からあきらめないで限界まで挑戦することを、今後の生活にも生かしたいです。

また自分からできるような、重い荷物を持ってあげること、車椅子の人がいたら押してあげること、家で手伝いをするなども、少しずつ始めていきたいと思っています。いつでもマイト精神の考え方をもち生活していきたいです。

オーストラリア海外研修で学んだ事

No 1 8 豊成中学校 坂本昂嶺

1・はじめに

オーストラリアはとても楽しい所でした。僕がオーストラリアで学んだ事をこれから紹介したいと思います。



2・研修日程の振り返り

オーストラリア研修初日の活動は熱帯雨林散策でした。世界最古のジャングルなので、見たことのない巨大なシダ科の植物が沢山ありました。そして、その後はカモノハシ探索です。カモノハシはとても警戒心が強く、なかなか姿を見せないため、すぐには見つけることが出来ませんでした。最終的には発見できました。とても特異な形の生き物でした。

2日目から4日目まではファームステイでした。ホストファミリーと仲良く接することができ、とても良い時間を過ごせました。



5日目は現地学生との交流でした。コミュニケーションをとり、夜はダンスをしてたくさんの友達ができました。僕は日本の文化の空手を披露してきました。『形』が終わった時、たくさんの拍手を頂きました。とても嬉しかったです。

6日目はグレートバリアリーフが有名なグリーン島に行きました。ここでは、グレートバリアリーフの珊瑚礁観賞をし、ビーチで海水浴を楽しみました。日本から持参したシュノーケルも大活躍でした。日本のビーチとは違いゴミ一つない、きれいなビーチでした。クルーズも満喫しました。



7日目は、キュランダ溪谷に行きました。ここではとても有名な鉄道に乗り、多くの名所巡りをしました。その後キュランダ村に到着し、そこでは水陸両用車アーミーダックに乗り世界最古の熱帯雨林を散策しました。見たことのない植物ばかりで、まさにジャングル探検でした。本物のコアアラを抱いて、バッチリ記念撮影もしました。その後はアボリジニの文化を紹介する施設を見学し、槍投げ、ダンス、楽器演奏を見たり聞いたりすることができました。また、僕たちはブーメラン投げの体験もすることができました。結構難しく、飛ばすだけでも一苦労しました。

最後はナイトマーケットでショッピングを楽しみ、僕たちのオーストラリア研修は無事終わりました。

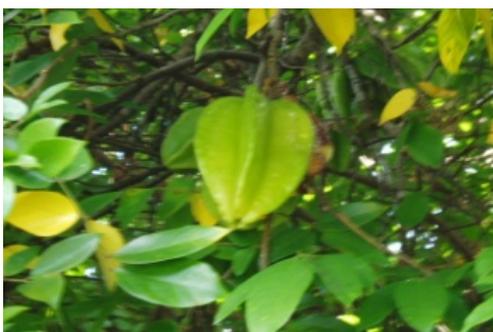


3・ファームステイについて

僕がお世話になったホストファミリーはボス家のハンズさんとマリタさんです。ボスさん宅でオーストラリアの生活習慣をたくさん学びました。

① 農業について

ボスさんの自宅では、鶏や豚はもちろん、果物もたくさん育てていました。その果物は代表的な南国フルーツのパイナップルやバナナ、マンゴー、パパイヤ、スターフルーツでした。なんとコーヒー豆の栽培もしていました。初めて見る植物もたくさんありました。



次に家畜ですが、ボスさんの家ではたくさんの動物を飼育していました。鶏に関しては、種類の多さに驚かされました。

作業見学では牛の解体を見学しました。初めて見たのでとても衝撃を受けました。



② 食べ物について

ボスさんの食卓ではお肉がたくさん出ました。ソーセージやサラミ、ハムなど力(エネルギー)になる物が豊富でとてもボリューム感があり、すぐに満腹になってしまいました。

しかし、ハンズさん(72歳)は僕達の2倍以上も食べていました。ハンズさんのエネルギッシュさは、この食事から得たものと感じました。またティータイムも充実していて、日本でいう『3時のおやつ』の時間には、ケーキやクッキーをたくさん頂いてきました。



4・自主研究について

僕の自主研究テーマは『クリーン活動などのエコ活動を活性化するためにはどうすべきか』です。

僕は、この課題を追求するために、次の質問をマンガリーフォールズのスタッフのTAITOさんに聞きました。

① オーストラリアでは、どのようなエコ活動を行っていますか？

A…木を植えたり、使用済の水を微生物を利用したりすることにより、きれいな水に戻して滝に返すというエコ活動をしています。

② オーストラリアの自然環境はどうでしょうか？

A…人工樹が少なく、また日本に比べて天然樹が多いことに加え、人口も少ないので環境はあまり悪くはないと思います。

③ 日本のエコ活動について知っていることはありますか？

A…エコカーの開発が盛んな印象があります。

④ エコについて意識していますか？

A…ビニール袋を貰わないなどの、身近にできることは積極的に行っています。



⑤ オーストラリアでは、どのような問題が起きていて、今後の課題は何ですか？

A…近年、目に見える程グレートバリアリーフの珊瑚が減少しています。今後は珊瑚の再生、増加を最大目標にしたいです。

感想…僕が感じたことは、オーストラリアは自然がとても多く、ゴミのポイ捨てなど考えられないような、個人のクリーン意識が高い国だなあとということです。

また、町中にもエコカーが行き交っているなど、自然を守るエコ活動も積極的に行われているように思いました。

一方、世界中で問題になっている温暖化について、オーストラリアでは、それほど深刻化していないように聞きました。豊富な大自然に助けられているように感じました。

5・オーストラリア海外研修を終えて

出発前の結団式で発表した決意表明…まさにその通りで、生活習慣の違いやオーストラリアの大自然、また文化や生きた英語を目の当たりにしましたが、20人の仲間との助け合いと先生の的確なアドバイスにより、思い切ってオーストラリアでの様々な研修を体験できたように思います。

迎えてくれたステイ先、ボス家のハンズさんマリタさんも僕たちにとっても優しくしてくれました。異国において『家族の優しさ』を感じた出来事もありました。

それは食事中の会話でした…ごちそうの多さと疲れもあり、食事を食べきれず残した時、僕が「s o r r y ごめんなさい」と言うと、マリタさんの返してくれた言葉が「私たちは家族なんだから、ごめんなさいなんて言わなくていいのよ」というものでした。心の温かさを実感し、ゆっくりとした気持ちになれたのを覚えています。とても感激しました。



僕たちと家族で夜遅くまでやったボードゲームでも、とても楽しい思い出ができました。帰ったばかりですが、またお会いしたい家族です。

今回の海外研修では世界の見方も変わり、人との関わりや自分の心の成長にも大きく役立った、有意義で貴重な9日間でした。たくさんの事を学び感動し、楽しむことができました。

お手伝いをしてくれた皆さんや一緒に行った20人の仲間、送り出してくれた家族に感謝したいです。ありがとうございました。

これで終わります。

オーストラリア海外研修に参加して

No.19 豊成中学校 高橋峻介

研究テーマ

「自然そして環境を大切にするにはどうしたら良いか」

約1ヵ月半前から準備を始めたこのオーストラリア研修。初めての海外ということでも「ドキドキ」「ワクワク」していました。僕は「自然そして環境を大切にするにはどうしたら良いか」をテーマに今回の研修に参加しました。

自分が体験したことやオーストラリアの風土そしてその地に住む人々と触れ合っただけ感じたことを報告いたします。

オーストラリアの概要

オーストラリアは赤道から約6,000km南下した位置にあり、経度は日本とほぼ同じで、時差は約1時間です。面積は769万km²、日本の約20倍。そして人口は2,011万人、日本の約1/6で、人口密度が日本の338人に対して、オーストラリアは3人と、いかに広大な土地に少人数で暮らしているかがうかがえます。

そして僕たちが行ったケアンズはオーストラリアの北東部に位置し、気候は熱帯。年中夏で、夜でもタオルを掛けずに寝られるくらいの気温でした。

ケアンズの気候は、僕にとっては秋田で最も暑い真夏といった感じでしたが、最高気温は更に高く40℃を超える日もあるそうです。また、紫外線は日本の約7倍で、とても日焼けしやすく、実際1日で顔が真っ赤になってしまいました。



ホームステイ先「ロバート一家」

今回僕がホームステイしたのはロバートさん一家で、父ロバート（38歳）、母ターニャ（35歳）、長女リヤ（3歳）、そして次女イザベラ（0歳）…。とても可愛かったです。



ロバートさん自宅

バッファローを飼育しているロバート家

ロバート家は農家で、バッファローを飼育し酪農を行っていました。ロバート家の日課は毎朝、午前4時起床、まずは朝食をバッファローに与え、搾乳（乳搾り）を行い出荷します。僕たちは6時に起床し、搾乳や牛舎の清掃を手伝いました。早朝でも気温が高く、臭いも大変きつく、なかなか大変な作

業でした。でも、バッファローも牛舎の清掃も初めての体験で、「こんな風にして牛乳が出荷されるのか。」ということがわかりました。

そして驚いたのが、近所でロバートさんの牛乳を購入し、乳製品を作る人たちが手伝いに来ることでした。中には僕たちと同じ年ぐらいの人（日本と逆でちょうど夏休み中）もいて、テキパキと働く姿は、自分よりもずっと大人びて見えました。



放牧されているバッファロー

酪農とは、ただ牛乳を搾って出荷するだけと思っていましたが、オーストラリアでは隣近所で乳製品にかかわる人々が協力し合って、牛乳生産が行われることがわかりました。

日本の酪農は、普通、牛舎で乳牛を飼育し搾乳するのですが、オーストラリアはほとんどが放牧で、施設は搾乳を行う建物だけといった印象で、日本よりもコストがかからないと感じました。他に僕たちは、牛乳を出荷する際に使用する段ボール箱の組み立て作業を手伝ったり、農機具の運転も経験させていただきました。



牛舎で搾乳を行う

僕の家も稲作農家なので、水田があり、自然に囲まれた暮らしをしているわけですが、オーストラリアの農業に触れ、そのスケールの大きさに驚くとともに、もっと大地と一緒に生きている感じがしました。



農作業用バイク

自然と共に生きるオーストラリア

そして更にオーストラリアが日本より自然を大切にしていると感じたのが、まずは道端等にゴミが無いことでした。日本の場合、都会、田舎を問わず空き缶やペットボトルのポイ捨てが見受けられます。しかし、オーストラリアの場合、道路の約100m間隔ごとにゴミ箱が設置されており、必ずゴミ箱に捨てるということでした。

もしかするとオーストラリアが広大なため、日本に比べ信号がほとんど無く、自動車での移動は高速運転で、ポイ捨てする暇が無いのかもしれませんが（一般道で高速道路並みの速度）。そして街中もきれいで、はだしで歩けるほどでした。

また、省エネ、リサイクルに対する意識も高く、コンセントの差込口にはスイッチがあり、待機電力もしっかり



切る習慣がついていました。そして水の節約は更に徹底しており、僕たちがホームステイしたミラミラシティはオーストラリアの中では比較的水が豊富といわれているそうですが、当然湯船は無くシャワーを利用し、その時間も5分程度で済ませます。給水時間も決められており、朝7時から夜10時までで、それ以外はトイレも水が流れませんでした。確かに日本、そして僕が住んでいる大仙市では水の心配をしたことはありませんが、これからは水道を出しっぱなしにしない等、小さなことからでも節水、省エネを心がけていきたいと思います。

先住民「アボリジニ」

オーストラリアの先住民「アボリジニ」の文化を体験することができる観光施設にも行きました。アボリジニは



約5万年前からオーストラリア大陸に居住していたといわれ、独自の文化や生活を営んでいました。その施設では狩猟方法だったやり投げやブーメランの体験、文化面では民族楽器（ディジュリデウ）演奏やアボリジニに伝わるダンスを体験しました。やり投げやブーメラン投げは難しく、よくこれで狩りをしていただけに感心しました。さすがに現地の人はずうまかったです。ただ純血のアボリジニはもういなく、その子孫が伝統を伝え残そうと、この施設で働いているそうです。僕が住んでいる豊成地区にはドンパン節発祥地ということで、元歌である「円満造甚句」があります。学校祭等で踊ったりするのですが、これからは自分も一人の継承者としてもっとまじめに踊りたいと思いました。



民族楽器（ディジュリデウ）を演奏するアボリジニ

現地中学生との交流。初めての外国人の友達

ホームステイの他に現地中学生との交流も行われ、障害物競走やダンスを行いました。さすがに英語でコミュニケーション…とまではいきませんが、ボディランゲージで意思疎通することができました。そしてそこで意気投合した友達ことができました。名前はレイゲン。学年は僕より一つ上で、性格もとても社交的ですぐに打ち解けることができました。初めてできた外国人の友達でした。



レイゲン・マッソン (15 歳)



オーストラリア海外研修まとめ

今回のオーストラリア海外研修では、広大な大地と透き通ったきれいな海に感激し、言葉は通じなくても、やさしく受け入れてくれたホストファミリーをはじめ現地の人々と触れ合うことができました。この体験で今までの自分よりも広い視野で、周りを見られるようになったような気がします。

オーストラリアで学んだ「環境」を大切にする心、自然と共存することの大切さを、これからの生活に生かすことができれば、意義のある研修になったということになると思います。

今回自分が掲げたテーマである「自然そして環境を大切にするにはどうしたら良いか」について、自分ができることとして本当に単純なことなのですが「ゴミを投棄しない（ポイ捨ては絶対にしない）」「省エネを心がける（水道の出しっぱなし、電気のつけっぱなしをしない）」を、まずは自分からスタートさせ、そして少しずつでもこの気持ちを周りに広げていくことができればと思います。

最後にこの研修に参加するチャンスを与えて下さった大仙市、そして家族をはじめ先生、仲間へ感謝し、研修の報告といたします。



オーストラリアでの8泊9日

NO.20 太田中学校 上井 初希

1. はじめに

私がなぜこの海外研修に応募したのかというと、以前から海外に興味をもっていたからです。日本とは違う文化や生活習慣を自分の目で見て、それを体験し、たくさんのことを考えてみたいと思い、また自分の英語がどこまで通じるか試してみたいという気持ちもありました。

2. テーマについて

私のテーマは、「よりよい学校生活のためには、どうすべきか？」です。

私の生活を振り返ると、いつも学習が不十分だと感じています。例えば、家庭学習の時間が少なくその内容も簡単で、中身の薄い学習になってしまっているような気がします。そこで、日本以外の国では、学校からどのような宿題が出されているのか、また、どのような方法で勉強しているのかなどを知りたいと思い始めました。今回のオーストラリア研修では、海外の中学生の家庭学習への取り組みと私の勉強の仕方を比較したり、海外の同年代の人たちの生活を体験したりすることで、私の今の生活をもっと充実したものにするのではないかと考え、このテーマを設定し、海外派遣に臨みました。

3. オーストラリアでの思い出

(1) オーストラリアに到着するまで

何ヶ月も前から楽しみにしていた「海外派遣」でしたが、実感がなかなか湧かず、出発日のギリギリまで用意をしないまま過ごしました。出発当日に大急ぎで準備をしたせいか、スーツケースのカギを家に忘れてきたり、荷札を付けていなかったりして家族や先生方に大変迷惑をかけてしまいました。やはり、前々から準備をするということはとても大切なことなのだと実感した出来事でした。

バスに乗り出発。友達とおしゃべりするうちに、空港にあつという間に着いたような気がします。そして飛行機へ。飛行機が出発するときになっても、これまで日本から離れたことがなかった私は、海外に行くということをまだ理解できていなかったように思います。乗り継ぎのためグアムで飛行機から降りたとき、初めて日本から離れてしまったのだと感じました。飛行機を降りた瞬間、今まで経験したことのない蒸し暑い空気に包まれ、秋田の気候とは全く違っていたのです。同じ時間でも地域によって気温が違うのは当たり前のことなのですが、ここまで日差しの強さが違うものだとは思っていなかったのも、とても驚きました。

グアムからいよいよオーストラリアに向かう飛行機に乗ると、私の隣の席は2歳になる赤ちゃんを連れた



外国人の家族でした。まだまだ英語には自信がない私ですが、「何歳ですか」などとお母さんに聞いたり、赤ちゃんと遊んだりしながらコミュニケーションをとることができました。赤ちゃんが喜んで笑ってくれたときは、すごくうれしかったです。

そして楽しみにしていたオーストラリアに到着。飛行機から降りて、バスに乗ったのは深夜だったので、そのときはまだオーストラリアに来たという感じはしませんでした。次の日の朝、部屋の外にはきれいな緑が一面に広がっていて、とても驚きました。前日の深夜に「マンガリーフォールズ」に着いたので全く気付きませんでした。こんな大自然の中に泊っているのだとても感動しました。これから始まる7日間の生活に期待が一層ふくらみました。

(2) 自然について

2日目は自然散策をしました。日本にはない植物が沢山あって驚きました。特に驚かされたのは、紫外線除けの植物です。オーストラリアは、日本の何倍も紫外線が強いそうです。そのために、植物も進化の過程で紫外線除けの機能をもつようになったのだそうです。紫外線に対して、人間だけでなく植物も工夫して生きているのだと感じました。



夜は、土ボタルの観察に行きました。私は、虫が嫌いで見るのも嫌です。しかし、土ボタルを見たり、現地のスタッフさんの話を聞いたりしているうちに、虫も一生懸命頑張って生きているのだと感じました。土ボタルは、限られた地域にしか生息していないそうです。光を当ててしまうと、もう光らなくなるという土ボタル。そんな、希少な存在を大切に守っていかなくてはならないのだと感じました。

グリーン島は、サンゴ礁がとてもきれいで世界遺産にも登録されています。わたしは、その素晴らしい海を見ることができて、とてもよかったと思うと同時に、もっとたくさんの人にもこのきれいな海を見てもらいたいと思いました。そのためには、このきれいな海を未来に残していかなければなりません。



観光客を増やしつつきれいな海を保つというのは、少し難しいことかもしれませんが、観光客一人ひとりがきちんとマナーを守っていくことができれば、この美しい海が長く残っていくのではないかと思います。

(4) コミュニケーションの大切さ

3日目からは、私の楽しみにしていたファームステイでした。この日までは、先生方やマンガリーフォールズのスタッフの方々など日本人に囲まれていて、外国に来ているという実感があまり湧きませんでした。しかし、いよいよ自分たちの英語しか頼るものはありません。

ステイ先のお母さんの車で家に着き、いよいよ自分の英語を試すときです。最初は、完璧な英語を意識しすぎたために、ほとんど話すことができませんでした。しかし、友達と協力しながら少しずつ話せるようになりました。

その時、普段の英語の授業がとても大切だということに気が付きました。授業中には「こんな本当に外国で使うのかな」と思うときが何度かありましたが、実際には、教科書そのままの基本文ではなくても、授業で知ったことを使う機会がたくさんあるのです。英語を使うには、言葉をたくさん知っているだけではなく、その意味を広く知っていなければなりません。それに、基本文をそのまま覚えるのではなく、使えるようにならなくてはならないと、身をもって感じました。

マンガリーフォールズに戻ると、その日は地元の子供たちとコミュニケーションをとる1日でした。ステイ先では、ホストファミリーもファームステイに慣れているらしく、何とかジェスチャーなどで自分の意志を伝えることができましたが、地元の子供たちは、何を言っているのかもわからないし、私の気持ちを伝えることもなかなかうまくできません。子供たちが話してくれても、どうしても1度では聞き取れません。そのたびに「もう1度お願いします」と伝え、何回も聞き直すことで、やっと意味を理解することができました。地元の子供たちも、いら立つ様子もなく何度もゆっくり言ってくれて、本当にうれしく思いました。時間が経つうちに、言葉だけではなくジェスチャーでも、意志を伝え合うことができるようになりました。やはりコミュニケーションをとろうと努力することは大切なのだと感じた1日でした。

(3) ファームステイでの思い出

ファームステイ先での初めて夜、私と同年のクリスタルがパソコンの画面を見せてくれました。そこには、「ようこそポッサム、外にいます」の文字が。みんなで外へ行くと、かわいいモモンガのような動物がいました。かわいいと思って見ているうちに満天の星に気がきました。オーストラリアに到着して以来雨が続けていたので、この日初めてオーストラリアの星空を見たのです。日本よりはるかに多い星の数でした。

また、次の日にはステイ先の家族と一緒に湖に行きました。湖は、足がつかないほど深く、水はとても冷たくて、とても気持ちがよかったです。

時間が過ぎていくうちに、お世話になる家族とも打ち解け、たくさんのことをして遊びました。ダニエル(11歳)とは、ゲームをしたり、ビリヤードのやり方を教えてもらったりして、



とても有意義な時間を送ることができました。

4. テーマ(学校生活の違い)について

私のテーマである学校生活について、クリスタルに尋ねました。

(1) まず、休憩時間に何をしているのか。

友達と話をしたり、本を読んだりしているそうです。また、日本の義務教育は9年ですが、オーストラリアは11年で、日本より少し長いのだそうです。

(2) 将来の夢は

クリスタルは獣医になりたいそうです。

学生の中で1番人気のある職業は、先生です。

(3) 学校の授業は、どんな教科があるのか。

教科は、数学・英語(母国語のこと)・社会・理科・美術・音楽・体育・家庭・パソコンの授業・技術・外国語・動物と触れ合う授業などです。外国語授業の回数は少ないのですが、日本語やドイツ語、フランス語等を習います。男子に人気があるのは、技術、女子に人気があるのは美術です。また、テストは全教科で行われ、受験となると数学、英語、社会、理科の4教科になります。教科ごとに先生が違うという点は、日本と同じです。

中学校でも動物と触れ合う授業があるのは、少し驚きました。しかし、私たちが訪れた地域は自然が多く、動物や昆虫もたくさんいます。こうした授業を通して、動物に慣れ理解を深めることができるので、とてもよい時間だと思いました。

(4) 宿題について

クリスタルの学校では、平日に宿題が出されることがたまにあるものの、長期休暇に出されることはほとんどないそうです。また、一人勉強の量や内容についてのきまりはありません。しかし、ほとんどの人は家に帰って自主学習をしているそうです。テストに向けて勉強したり、その日習ったことを復習したりしていると言っていました。

(5) 学校での生活時間

次に、授業時間についてです。授業は、1単位時間が30分か45分の4時間授業です。日本に比べるととても短いので少し驚きました。

1日の流れは、8時45分までに登校。15分のホームルームの後授業が始まり、3時ころには下校です。登下校は、車での送り迎えが多いそうです。クリスタルの場合、学校まで車で片道30分、往復だと1時間かかります。送り迎えがとても大変だと思いました。

オーストラリアでは給食はなく、食堂のようなところで自分が食べたいものを注文します。毎日変わらないメニューもありますが、その曜日にしかでないメニューもあるそうです。中学生には、スパイシーチキンやサラダ、小学生には、パイやソーセージ、チキンナゲットが人気メニューだそうです。あまり人気がなかったのは、トーストのパン、ベイクドビーンズでした。料理を作っているスタッフの中には、ボランティアで手伝っている学生の両親もいます。日本では作る人が決まっていて、学生の両親が手伝いをするというのはほとんど見られないことなので、すごいと感心しました。

5. テーマのまとめ

私がこのテーマで調べてみて1番に感じたことは、学校生活を充実したものにしていくためには、何事にも楽しんで取り組むことが大切だということです。クリスタルにも苦手な教科はあるそうですが、学校は楽しいと言っていました。たとえ苦手な教科があったとしても嫌い決めつけるのではなく、まずは楽しんでやってみると、きっともっと勉強したいという気持ちになっていくと思います。やりたいことだからこそ、集中して取り組むことができるのではないのでしょうか。今、苦手で嫌な教科や勉強があったとしても、とりあえず楽しいことからでもいいからやってみる、そうすると意外とすんなりできるかもしれません。何事も「勉強しなければいけない」などと重い気持ちから取り組み始めるのではなく、緊張感も大切にしつつ、楽しい気持ちでやってみる。それが大切なのではないかと思いました。また、私は今まで、提出しなければならぬからやるという気持ちが強く、自分から進んで勉強しようとは、ほとんど思いませんでした。しかしクリスタルは、提出の必要がなくてもしっかりと勉強しています。自分から進んでやるということは、とても大切なことだと思います。これからは、自分から進んで学習できるようにしていきたいと思います。

6. 海外研修を終えて

今回の海外研修では、本当にたくさんのことを学ぶことができました。英語はもちろんのこと、日本語が通じない人たちとコミュニケーションをとることができ、自分の学習の仕方について見直すことができました。とても内容の濃い8泊9日を送ることができたと思います。

そして今回は、言葉の通じない人たちと話す機会がたくさんあったので、相手の目を見て話したり、笑顔で話したりすることの大切さを知りました。相手の目を見ないと言葉は伝わりにくく、つい真剣な顔で話していると、楽しい話でも深刻な話に思えてきます。笑顔だとリラックスして話すことができます。

また、「百聞は一見に如かず」という言葉の意味を実感することもできました。例えば、何度学校でリスニングをやっても、現地の英語とはスピードも雰囲気も違います。行って体験しなければわからないことでした。

さらに私はこれまで、本やパソコンなどで情報を得ても、自分の意見をもったり、深く考えたりすることはあまりなかったので、自分の考えを持つことがいかに大切かということも実感しました。

今回このような体験に参加できたことを、家族や先生方に感謝したいと思います。そして学んだことを確実に自分の生活に生かし、充実した毎日を送っていききたいと思います。